

■ 第26回 全道造形教育研究会
■ 第13回 空知子どもの作品を語る会

岩見沢大会



すべての子どもに造形のよろこびを

大会日程

	8:30	9:00	10:00	10:30	12:00	13:00	16:00
●26日	受付	公開授業	開会式	作品を語る会	昼食	分科会	パーティー
							(実技コーナー開設)
	9:00	10:05	11:50	12:00			
●27日	パネル ディスカッション	記念講演	閉会式				

- 主催 北海道造形教育連盟・空知美術教育研究会
岩見沢市教育振興会
- 後援 北海道教育委員会・岩見沢市教育委員会
岩見沢市PTA連合会

造形教育への提言



岩見沢大会開催によせて

岩見沢市教育委員会
教育長 成田 虎 男

第26回全道造形教育研究大会を当市で開催することになりましたが、全道各地区から日頃の実践と課題をもたれたたくさんの先生方をお迎えすることは開催地の教育委員会としまして心から歓迎を申し上げます。

子どもの造形の芽を大切に、育てることを願って身近な、そしてささやかな実践の歩みを続けてきたのでありますが、その実践課程で考えさせ

られることは造形の芽は子どもの生活の中でほんとうに大切にされているのだろうかということでもあります。

「すべての子どもに造形の喜びを」という大会のテーマはこの大会の願いであり、まことに意義深いことであると思います。

大会が有意義でありますようにと、それぞれの立場で誠意準備を進めてきましたが足りない点はよろしく御協力をお願いします。

参加いただいた先生方によって充実した研究を進め、大会の成果が広まりますことを期待申し上げます。

終わりに全道造形教育の発展をお祈りして挨拶といたします。

ミルクとごしょいもの味

札幌市宮の森小学校
高橋 栄 吉

北海道の夏はみじかい。ゆうゆうと草をはむ乳牛と牧羊の群れからツメクサのにおいをはこんでくる初夏の風は北海道の風土のものである。

おやつに土鍋のなかでホカホカと、ゆきがたいものが ゆげをたててわれている。母の笑顔とこどもの瞳がचाあう。あついごしょいもとろりとしたミルクがふんだんにかけられて、唇から頬にかけていもとミルクが顔いっぱいにくっつく。手をあらってもなお土と牧草のにおいがとれない。土鍋のなかに煮えていたいものは旺盛なそだちざかりがたちまちにたいらげられ、土間の板敷きに大の字になって、やがてねむ気がでてる。原

野をかけめぐる快よいつかれと満腹感はいつものまにか深いねむりにおちこんでしまう。ゆめは入道雲の彼方をめざしてとんでいく。

おもいきり牧草のなかになかごり、はてしない原野のはてまでほこりをあびて遊びまわる毎日のこどもは、やがてたくましく夢と希望にみちて大きくなっていく。

素朴な土のにおいと草のにおいがしみつき純真な心とバイタリティにあふれる北海道のこどもたちがぐんぐん育ってくる。

この大地にあしをがっしりとふまえ、じっくりと腰をすえて世界にひろがる空をあおぎ、ともだちと心の手を結びあい、20世紀の世界をつくりあげていこう。

つよい意志とたくましい行動力と英知を創りあげていこう。

目 次

● 造形教育への提言	1
● 造形のひろがり	6
● 公開授業	11
● 実験授業	12
実験授業 A (小1～小6)	
実験授業 B (幼～小6)	
実験授業 C (中)	
● 指導資料	27
● 分科会構成	41
● 実技コーナー	42
● 大会役員	43
● 北海道造形教育研究大会年次研究主題	45
● 空美のあゆみ	46

◎ 記念講演

美術教育の課題



たかのり
熊 本 高 工 氏

大正7年山梨県生。青山師範卒、東京美術学校油絵科内地留学、東京教育大学芸術科卒。東京都立小学校教諭をふりだしに、お茶の水女子大附属中講師、女子美術大学助教授などを歴任するとともに、INSEAの日本代表、造形教育センター委員長などの要職をとおしてわが国の教育美術運動の先駆的な役割を果たしてきた。

この間、多くの著書・論文の執筆があるが、最近のものとして「造形教育センター20年史」など、論文に「三原色説の研究」「造形教育の一貫性」などがある。

大会準備のひとこまから

“人間模様”

空知美術教育研究会長
徳梅 英次郎

今日は、6月10日。――

大会まで一ヶ月半程である。

千人以上も集まるような大会を準備するという事は、大変な仕事のボリュームだな――と改めて思い知らされているこの頃である。

この1年余り、岩見沢の先生方を中心に、私共、空美関係百余名の者が、それぞれの分担に従って、壮大な「大会という建物」の外廓を築いてきたし又、現に築きつつある。

大会当日、この建物に多数の参加者が加わる事によって、内装も充実した「大会という建物」が聳え立つ。

いう迄もなく分担にはピンからキリ迄ある。

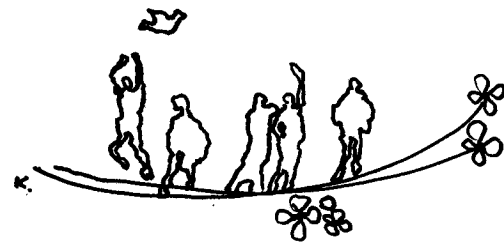
空美の者は、皆ピンであろうがキリであろうが、それぞれの足場にとりついて「空知らしい大会」の建築を目ざして精一杯の力を尽している。

空美百余名の協力する様は、まさに美しいモザイクのような人間模様である。

そこで全道各地から参集される皆様方に訴えたい。

皆様も又、「大会という名の建物」を壮大に美しく飾る一つのモザイクになって頂きたい。

美しい美術の大会にふさわしい人間模様が、主催者も参加者も一つに調和して築かれん事を心より希望して――。



岩見沢大会への提言

岩見沢市教育振興会長
荒谷 満夫

芸術は自分の身のまわりに美しさを見だし、目をよるこばせ心に美しいという感情をよびさましてくれるものである。

したがって芸術は、特別なもの芸術家だけのものではなくみんなのもの、だれもがつくるよるこびを味えるものでありたい。

図工科や美術科を、心ある先生がたが造形教育とよぼうという意見がでていようであるが、わたしたちの生活にとって絵や彫刻だけがたいせつなのではなく、建築や工芸、服飾やデザインなどを含めて造形芸術のすべてがたいせつであるとの考えにもとづくものである。

自然や身のまわりの美しさを新鮮にとらえ、自分の思うように物をつくったり、かいたりすることができたらどんなに楽しいだろうか。

現代は物の時代が終わり、心の時代がはじまると言われている。現代社会の大きなひずみは人間性が失われつつあることである。

本大会において、人間性の回復や、情操を高めより豊かな心を育てるために造形教育が果たす役割について探求されることを期待したい。

全道造形教育研究大会が私どもの学校を会場にして開催されることになりました。全道から研究会に参加される先生方を心より歓迎いたします。

大会事務局から、造形教育について何か感想をという依頼を受けましたので、私なりに素人としての考えをのべてみたいと思います。

わたしたち年代の小学校時代では、たしか、図画と工作とに分かれていたような気がいたします。図画の授業の中味は写生と教科書(手本)の絵を模写することだけで終わっておりました。現代の造形教育は、描画、版画、デザイン、工作など広範囲にわたって創造的な表現活動を目ざして授業が展開されていると聞いております。

このように造形教育が「豊かな情操や

造形教育と

環境づくり

岩見沢小学校
PT会長

河原吉男

創造的な人間の育成」をめざすものであるならば、子どもたちの情緒や感覚が自然に成長発展していくような環境の整備が必要となってくるでしょう。私どもの学校もPTA活動の一環として、緑化推進に力をいれ、校庭に芝生を配し、花だんに調和よく各種の草花を栽培し、情操豊かな校庭づくりの協力をし、奉仕活動をしております。

このような環境づくりが、造形教育の面でも子どもたちの表現意欲を喚起させることになると思うことは、図画工作における学習が期待できることと思っております。

今後も学校の環境づくりには学校側と一体となってPTAとしてできるだけ奉仕活動をしていくつもりであります。

大会の成功を願って

大会運営委員長
浪田 博

最近、校内に掲示されている図工の作品を見ると、随分変わってきたように思われます。

それは、作品が目立って上手になったというのではなく、個性やいきいきとした生命感のあふれた作品が多くなってきたということです。

子どもの作品を見るとき、わたしたちは、とかく上手、下手でうんぬんしがちですが、作品にみられる真の美しさや、人の心を打つような生命感、いわゆる上手な作品よりも、あくまでその子の清新な眼で見、心でとらえたものを、その子なりに、からだ全体で表現したときに、より強く感

ずるようです。したがって、先入感を捨ててありのままに見させるとともに、教師が指導過剰にならぬよう気をつけたいものです。

“ひとりひとりの子どもに造形の喜びを”を大会テーマにして、その準備に取り組んでから一年を経過しました。大会に参加したすべての人が、その人なりに目的や願いを満していただきたいとの願いから、これまでのしきたりを打破した新しい試みも取り入れました。しかし、実践研究の不足や会場設営の不備などから、果たして満足していただけるかどうかを懸念いたしております。

ともあれ、この大会を開催するにあたりましては、関係の諸先生方には並々ならぬご尽力をいただきましたし、道教委、岩見沢市教委をはじめ各機関や団体、その他各方面からは、絶大ご支援ご協力をいただきました。ここに、深く感謝の意を表する次第であります。

子どもの立場に立つ

連盟研究部長 金井秀男

子どもの立場に立って教育を考えるということが、こんなに数多く言葉や文字にされているのは、一体どうしてなのでしょう。元来教育というもの特に義務教育といったものは、子どもを抜きにして考えられない筈なのに、どうしてこのごろになって、やたらにいわれるのでしょうか。そこら辺からはっきりしておかないと造形教育も大変な誤ちを起してしまうことになると思います。

教材の精選の問題から「大変な誤ち」にのめりこまないために、いくつかの私見を述べてみたいと思います。

「ひとりひとりの子どもに生き生きした学習をさせたい。よき学習体験の場を与えたい。」という願いから教材精選の研究が行なわれているのは事実だと思います。子どもの立場に立っての精選ということは、現場の各教室における実証研究といわなくてはなりません。実証研究は学習の事実を尊重し、リアルに子どもをみ、子ども自身にとってよりよいものは何かを選択する研究であると考えます。子どもから遊離した研究でなくどこまでも子どもとのかかわりに根拠をおく教育実践者としての研究なのです。

教師は子どものよりよき成長を願うことからひとりひとりの子どもにとって最もよきものは何か。教科書の教材や多くの資料の中から適切な教材を選び、学習のめあてや方法を決定して教室にのぞむはずです。なんの用意もない子どもへの立ちむかいでは、それは当然です。

このように選択された教材も授業の中で教師と子ども相互のかかわりの中で新しい教材が生産され、それが子どもに働きかけで学習を発展させるものです。この教材の生産の方向を決定していく主体は子どもですが、機に応じた教師の選択と助言が重要な役割を果たします。

子どもの立場に立つということは、子どもとともになされる教師の実践的な課題の追求であります。教師が事実の研究選択したものにこだわらず子どもの理解や疑問・心情を素直にみとって用意したものを捨てても子どもにとってよりよきものを選択決定していく柔軟な姿勢——これを私は「しなやかさ」といっているのですが、子どもを研究の根っ子にすえた基本的態度でなければなりません。いまのことを忘れた教育研究や実践発表は意味のないものといわなくてはなりません。残念ながら、ややもするとそのことが見落されがちになり、子どもから離れた構造化論や、時間をかけさえすれば成果があがるといった考えや、一定時間さえやればよいといった考える単なる時間に基準を求めるといった非科学性にながされがちであります。

子どもは、なぜ描き造るのだろうか。「描きたいから描くのです。」「作りたいから作るのです」そう子どもは答えるでありましょう、かきたい、つくりたいとは子どもの心の内に湧く表現への欲求であり、自己発見のひとつのあらわれであります。ひとつの黒板に向って描きつづける子どもの姿を「遊び」ともいえよう。「遊び」というものは子どもの内に湧く伸びる力、生きる力の行動化されたものであります。造形活動はここにその活動の基盤を求めなくてはなりません。「全ての子どもに造形の喜びを」のテーマは、まずそこから出発し、子どもをていねいにみつめることに全力をそそがなくてはなりません。それは息の長いこ

とです。それは教師が人間として生きるという生きざまのきびしさに徹することであります。かつて久保貞次郎は美術教師は腹のすく仕事である。気の遠くなるほどの辛抱と寛容を子どもにもたなくてはならない、といった。今日の教育の取り組みの中での教師の時間的負担を減ずるのはよいことだと考えますが、しかしそのために、かんじんの子どもたちの成長がゆがめられ、指導が大幅に弱められるとしたら、それはどうなることだろう。力の落ちた子どもたちの指導はこれまでの指導におけるよりも、はるかに大きな労力の負担を教師に押しかぶせることにならないとだれが保証できよう。

子どものもつひとつひとつのひだをどこまでも見つけていく仕事を、いまこそわたくしたちが

謙虚に対しなければならぬ個性的仕事をひろげなくてはならない。

造形教育に、みずみずしい夢をもたせること、学校教育に魅力を感じしめることが、いま必要なのである。こわばりはたまた思考は、必ず独善の中に埋落していくことでありましょ。

しなやかで、みずみずしい仕事が、各人の経験を理論として百出されたときに、全ての子どもに造形の喜びがやってくると、私は信じている。

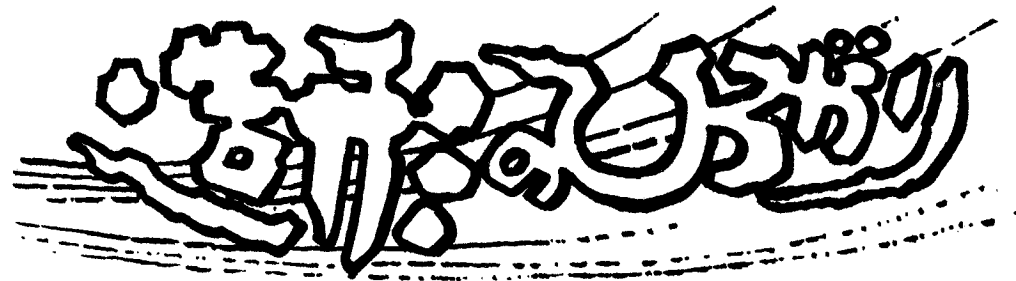
「すべての子どもに造形の喜びを」というテーマは、単なる造形教育の研究の方法上の問題ではなくして、現在の教育が直面している問題に対してまっ正面からとりくみ、教育を子どもにかえすといった教育を創造する働きをよびかけたものであると私はとらえています。

私達は特に現代の子どもの生活形態に注目し、知育、徳育、体育すべてが遊びを離れては考えられないが、現在の子供達にはそう云う環境があまりにもなさすぎる。親達も自分の子どもの頃を忘れ安易にオモチャを与えてはいないか、オモチャの洪水に流され、創意工夫を無視して初め使い方で決められた遊具しか与えてはいないか、玩具の本質を見失ってはいないか。こんな疑問の中から、「遊びの輪が広がって」をテーマに子ども遊び祭りを開催いたしました。創造性のある手造りの玩具を通じて、この祭りに参加した親達が昔を思い出し、子どもと一緒に遊ぶことの重要性に気がついてくれれば……私達の今日の生活が次の世代を荷負う子供達への命と文化の継承のための作業であることを確認し、学校教育と家庭教育の谷間にあって、手がつけにくい事業を為し得たことは、偏へに、造形教育研究会の方々のアドバイスの賜と、深く感謝を申し上げます。

子どもの遊びによせて

社団法人 岩見沢青年会議所
理事長 勝井 清

「すべての子どもに造形の喜びを」をテーマに、第26回全道造形教育研究大会が当地に於て開催されることに対し、心からお祝いを申し上げます。私共青年会議所も常に「明るい豊かな社会」の実現を理想とし、活動が続けて参りました。戦後の混乱期を乗り越え不死鳥の如く甦った日本は、高度成長の波にのり、経済大国を自認し、世は使い棄て、消費は美德なりの風潮の中で「心」の抜けた物質至上文明へと変身したものゝ、オイルショックに端を発した経済恐慌に遭い、人間としてのモラルを取戻さなければならない時期に立ち至っております。



古くて新しい命題に向けて

事務局長 早 弓 弘 行

大会にかける願い

造形教育というものを大切に考え、子どもをこよなく愛している教師のすべてが願っていることは、どの子もひとしく、瞳を輝かして取り組む姿を見ることではないでしょうか。先生が準備した教材に、子どもみんなが息をはずませながら取り組んでくれるとしたら、それはもう教師としては嬉しくて嬉しくて、「よし、明日もやるぞ。」と思い、子どもは子どもで、「今度はどんなことをやるのかなあ。」と、期待に胸を躍らせる。こんないい循環が作られたらいいもんだなあと思ひます。

すべての子どもに造形によるこびを、という大会テーマは、こうした教師の願いを土台としています。教師だけが一方的にイキガッてもいけないし、かといって、喜んでとり組んではいないが、子どもはちっとも育っていないというのも困る。喜びと楽しさの中で、人間にとって大切なものが育てられるようにしたい。こう考えてくると、なんとデッカク難しいテーマだなあと思ひます。

しかし、いかに難関でも、この命題だけはほおりだすわけにはいきません。それは決して不可能とはいえないことで、現に全道の、造形教育に力

をかける多くの教師がこれを可能とし、まさに、ため息をつきたくなるような魅力のある実践を今までに公開してくれています。このような教師に教わる子どもも幸せですが、授業の公開もまたいたってフランクで、「見せてよ。」「アイヨ。」というような調子がまた嬉しいのであります。多分それは自信とゆとりのなせるワザでありましょうが、「ローマは一日にして成らず」の通り、まさに血のにじむような努力があったのではないかと思うのです。過去の大会で知った人達の、下記のような共通点があるのも実に興味深いことです。思いつくままにあげてみますと……

1. 実践が産んだ貴重なことばを持っている。それは、どんな本にも書いてない。その学級の子にだけは通じる“ことば”です。
2. 気ばらない。教室にピンとはりつめた空気があるのに、教師も子どもも実に表情が豊かです。
3. この“ゆとり”のようなものが生まれる教室の教師は、まことに周到な準備をする。そして、予想が的確だ。こうしたら、こう反応するぞ。また、それは驚くほど正確に適中する。
4. 指導案を見ながら授業をするようなことは、決してしない。子どもの活動から目を離さない。

反応をみながら、たくみに進路変更をする。うまい役者がやるように、それはとてもスムーズだ。

5. 子ども達もまた、聞くべき時にきちんと聞いている。
6. 子どもに必ず成功させる。挫折感を味わわせない配慮が常にある。
7. おとなと子どもをゴチャマゼに考えてない。つまり、おとなの能力でコナセナイようなことを、平気で子どもに与えるような、無神経なことは決してしない。

しかも、作品が良くなることは、即大人に近づくことであるというような、アホな論理は絶対にもってない。子どもには、おかすことのできぬ“子どもの世界”があることを、理くつでなく肌で知っている。

8. 子どもが困れば、先生も一緒に困ってやる。苦心してれば、共に辛がってやる。とても人間的で頼りがいがある。

子どもが困ってるのに、傍で丸ツケをしてくれるような図太い線はもちあわせないようだ。だから、子どもは相談にくる。しまいには、門前市をなす賑わいになってしまうこともある。けれどこんな現象をとっても喜んでいように見える。

9. 作品を冷たく見ることができない。作品ができあがって、それが子どもの手から離れても、いつも、その作品の中に息づいている“子ども”を見ている。だから、その先生と作品をモノにした子どもにしか通じないような評価をすることが多い。

それがたまたま誤解を受ける。しかし、その誤解は、教師と子どもの交流を知る人でなければまず解けることはない。

10. 見通しがきちんとたてられている。子どもの力をよく知っているから無理をさせない。年間の見通しの中で、与えるものは一つずつ確実に

与え、一時間の流れの中で、今日の到達点はここまでということをし、しっかりと頭にたたきこんでからかかる。作品に対するイメージも鮮明だ。どんな絵にしたいの？と問えば、たちどころに答えがかえってくる。

この大会では、今まであげてきたような事実にも一歩でも近づきたい。それにはまず、教師自身が造形の喜びを体得することだと考えました。しかし、実際には、苦しんで苦しめぬいて、今はただもがいているだけです。

参加の先輩諸先生が、楽しそうにやっているのを見ると、羨しいというか、ニクライイというかとにかくそのコツをこの大会で披露してほしい。そしてそれは、作品を証拠にわかりやすく語ってほしい。こう願っています。

授業が「名人芸」である時代はとうに終わったのだ………と思います。

ゴタゴタ大会の意図

研究にかぎらず、授業の創造も教材の開発もすべて、いままでの方法を拒否することから初まるように思えてなりません。

いわば、従来の研究会の「定型」を拒否することで新しい研究のあり方を求めたヒネクレ集団が「空知子どもの作品を語る会」を創設し、このことによって、いたく「横のつながり」の必要を感じて結成したのが「空知美術教育研究会」であったのだと思います。

そして、いまここに、この意図を是とし、先輩集団の意志をうけ継いだのが、ヒネクレ集団二代目であります。

しかし、創造は常に破壊を道連れに展開します。一代目のヒネクレ集団の方途を、そのままに引き継いだのでは、二代目としてのコケンに関わるわけがありません。………と思うのですが、この曲がりかどに立って、途方にくれているというのが、

偽りのない現状です。もはや、私達の力では、この厚い壁は破れぬと悟りました。この大会は、そういったわけで、模索の会になってしまいました。いわば、八方破れの構えで、あらゆることを試みてみました。決して、皆さんのご満足いくように準備できなかったいいわけをしているのではありません。二代目集団が突破口を見つけるための努力の姿であります。大会がゴタゴタと総花的に見えるのはそのためで、私達はこの大会で建設的な示唆をいただき、新しい研究の方向を定めたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

幸い、私達は志を同じくする150名の仲間がいます。ありていに申して、時にはケンカもします。もたれあって仲よくサボルこともないとはいえないかもしれません。しかし、嬉しいことに、この集団には「横のつながり」しかありません。派閥もありません。やる気充分の集団であります。おのおのの主張をもちながら、それでいて、腐れ縁のように13年も離れられないのは、共通の接点でつながっているからだと自負しています。「共通の接点」とは何か。それはいわずもがなであります。

このうちの一人、藤原明君が大会を前にして亡くなりました。私達は、頼りにしていた仲間を失いました。彼は、実技講習の謝礼をそっくり、この大会に抛金して、「一円でも無駄にしないべな」と言っていました。

また、空美事務局の柱である橋本保隆君が倒れました。彼は、病院のベッドで、大会の成否を気にしていることでもあります。

この大会は、必ずしも当初の計画通りにはいきませんでした。とにもかくにも全力は出しきりました。あとは、先生方のご支援を待つのみです。私達はサワヤカな気分、大会の朝を迎えることができました。

岩見沢小学校の教師集団

大会を進めるにあたり、岩見沢小学校の教師集団が、小学校の授業を全部ひきうけてくれました。空美研の輪を、30数本のフレームでがっちりと支えてくれました。このことは、小さな事実ではありません。同様に、幼保の部を天使幼稚園のフレッシュな先生方が引き受けてくれたこともそう言えるのではないかと思います。空知に限らず、全道にこういう嬉しい人達がいるようです。どうかこの集団を大切にしてください。造形教育への提言や悩みを聞いてあげてください。決して、冷たい「批判者」や「評論家」の立場で発言しないでください。一緒に痛みや悩みを分けあってください。その上での厳しさならば、同じ悩みをもつ者として、「共通の広場」がみごとに成立するであります。

作品を語る会と分科会のちがい

この大会では、2つの似たような会を企画しています。それぞれの内容はあとで述べますが、両者の違いは下記のようなこととなります。必ずしも、その差異を意識しなくともよいのですが、ウエイトのかけ方を考えていただいでご参加ください。

1. 作品を語る会は、「子どもが製作した、作品そのものについて」話し合う。その作品を作る過程の指導、指導の苦心、指導のコツ、表現に関わるもろもろのことを中心とします。主として、教室の中で（あるいは戸外で）行われる活動から離れずに進めます。

作品の批評会ではありませんので、できれば学級全員の作品を対象に話を進めてください。素材となる作品は、特別指導のものでなく、ふだんの授業から生まれた作品が望まし

いと思います。

話し合いの形態は、作品を中心に車座にしましょう。分科会のように挙手して発言を求めることもありません。ガイドさんを中心に、誰でも思いついたことをどんどん出しあいましょう。

あまり構えないで、本当に困っていること、小さなこと、どうしても失敗してしまうことなど、本音が出れば語る会は成功です。

ガイドさんは、解決策を皆さんからひきだして、質問者に何とか答えを出してあげてください。語る会は「答え」が必要です。

2. 分科会も、やはりガイドさんがいます。作品も持ちこまれます。しかし、語る会と違うところは、作品を媒体として、広く美術教育全体の問題もとらえていくことにあります。ですから、ある題材についての、幼稚園から中学までの発展のあり方とか、領域と領域の間の問題、家庭の問題など巾ひろく話をひきだしてください。その他共通問題もあります。分科会のページをよくご覧いただきたいと思います。

この会で……………

必要なこと

- ・参加者の皆さんで、この大会をつくりあげる自主的な構え。
- ・参加の全員が、作品や実践を出しあう勇気
- ・認めあい、励ましあい・補いあう仲間意識
- ・意見を受け入れる姿勢
- ・やわらかな、楽しい、研究の雰囲気

不要なこと

- ・警戒心や功名心
- ・あげ足とり・わだかまり

・自慢話

- ・作品のこきおろしや、一方的な主張
- ・評論家的態度での参加

貴重な遺産

さて、空知美術教育研究会や岩見沢市図工サークルの教師・岩見沢小学校の教師やPTA・岩見沢天使幼稚園と、それを支える市内幼稚園保育園その他関係各機関や団体のご指導やご援助等をいただきながら、この大会の準備を進めて参りました。決して楽々と進めたわけではありません。挫折しそうなこともありました。多少の思惑や、停滞や、もろもろの障害は当然ありましたがそのたびに関係の皆さんのお力添えや激励をいただき、教師集団の力できりぬけてきました。

この大会を準備するにあたり、私達が得たものは、「ひとりでは何もできない。」ことを、改めて確認できたことでありました。今日、ここに、多数の参加の皆様のおかげで、空知にまたひとつ「新しい力」の加わったことを確認しました。もし、機会を得て、私達の力が少しでもお役に立ちますならば、他地区との協力は惜しまぬつもりです。

この大会の成功・不成功はさておき、私達は持てる力の全部を出しました。もとより微力ではありましたが、悔いるところはありません。

皆様のご支援にありがたく感謝申し上げ、きょう一日を楽しく過ごしていただきたいと存じます。

ここに60数回にわたる会議の記録と、全員の苦闘の跡が6冊の記録簿として残りました。かなり、行きつ戻りつはしましたが、これが形に表われた大会の遺産です。この大会をひきうけて、良かったと思うことはいくつもあります。その中で

公開授業一覧



大きいのは、多くの仲間を得たことでありました。空知の仲間は、無論本気になって協力しました。そして、何よりも嬉しいのは、空知という小さな単位から、全道へと大きく視野を広げることができたことです。それと同時に、全道の仲間達から限りなく力強い支援を受けました。こんな機会、めったに訪れることはありません。とても辛かったけれども、それに見合うだけのものは得ました。私達は、この……6冊の記録簿に凝縮された……遺産を大切にしていきたいと思っています。

全国大会へつなげるもの

今ここに、来年度への札幌市における、全国大会へつなげるものがあるとすれば、それは、北海道の美術教育の組織力と、この26年にわたって粘りつよく続けられた全道大会の根気と熱意であろうと思います。いま、造形教育は、必ずしも正當に評価されていないように思えますが、造形教育に対する危機感が全体のものとなったとき、それは途方もなく大きな力となるのでありましょう。一人の名人芸は、しゃせん一人のものでしかないと思います。それは、その人のものであって、全体のものではありません。この20数年に及ぶ大会の歴史は、そのままに、一人のものを全体に広げる努力の継続であったように思います。そして、空知もまた例外ではありません。

それは、他からみればごく些細なバカげて見えることであっても、それが原点であれば、そこから出発しなくてはならない。たとえば、いつの大会であったか、もう十数年も前に、「元気な作品とは何だろう。」ということを経験したことがあります。たしか伊藤恵先生が司会者で、ひとり

ずつ「自分の考え」を述べました。少なくとも、よくは解らないながら、「子どもに生き生きと活動させなきゃならんのだな。」という感触を得たものです。あれから十数年を経て、いま私達が掲げたテーマは「子どもが喜んでとり組む造形教育」であります。ことばは変わっても、追っているものは同じです。この……古くて新しい命題は、またいつの日か、どこかの大会でとりあげられるのではないかと思います。地味であってよい……私達はこの粘っこさを大切にしたいと思っています。

キザなことばですが……

地味で、やりきれぬほど長いこの道は、まだまだ続くと感じています。一年に一度、歩みの一つの節として相集い、励まし合うことの意味は、造形教育に情熱を燃やす教師であればだれでも知っています。

「もうやめた。もうやめた。」「こんな大会見たくもない。」ようなことをいいながら、次の大会ではちゃんと顔を見せているのです。やはり、「一人では何も出来ぬ。」ことを肌で感じている仲間であるからでしょう。

私達も、この大会の終わりの「蛍の光」を新たな「出発の歌」としてがんばって参りたいと存じます。

正直を申しますと、私達はちょっぴり疲れちゃいました。少し休んで、またがんばります。

とにかく、とにかく、この大会のご参加と私達へのあたたかなご援助、本当にありがとうございました。

☑実験授業A (系統性をさぐる)

学 年	題 材 名	授 業 者	学 校
小 1	友だちいっぱい (全身)	今 井 俊 子	岩見沢小学校
小 2	ボールわたし (連続)	多 田 省 三	"
小 3	にもつをかついでいるおじいさん (物語り風に)	白 幡 貞 郎	"
小 4	釣りをする友だち	渡 辺 千和子	"
小 5	ふりむいた友だち (明暗)	澁 谷 正 美	"
小 6	作戦をねる友だち (ポート三人・重なり)	田 村 栄 次	"

☑実験授業B (遊びを子どもに返そう)

学 年	題 材 名	授 業 者	学 校
幼 (4才児)	キヤタピラあそび	土 門 祐 子	天使幼稚園
幼 (1年年長)	ファッションショー	前 田 敬 子	"
幼 (2年年長)	さかなのくに	津 沢 弘 子	"
小 1	粘土の中であくしゅをしよう (穴のあいた形からなにができるかな)	笹 尾 寿 雄	岩見沢小学校
小 2	はっけよいのこった(紙ずもう)	佐 竹 史 帆	"
小 3	かわった鳥の小鳥屋さん	松 田 剛	"
小 4	まわるロケット	平 山 竹 男	"
小 5	つ つ 凧	田 中 恒 彦	"
小 6	マジックカード	正 岡 辰 郎	"

☑実験授業C (A・Bを含めた内容)

学 年	題 材 名	授 業 者	学 校
中 1	紙をつかって	加 藤 勉	光陵中学校
中 2	動くハンガー	田 中 敏 雄	緑中学校
中 3	石をつかって	石 崎 哲 男	東光中学校

小学校 1年

友だちいっぱいー全身を大きく
のびのびと、たくさんかこう

授業者 岩見沢小学校 今井俊子

授業へのねがい



「好きな友だち」

「好きな友だち」という題材を、サインペンを使って紙いっぱいに、のびのびと大きくかかせようと思ったが、できあがった「友だち」は、お人形さんので、小さく、思いきってのびのびと — という絵は少なかった。

それでは — ということ、筆(8号)を使って、大きく、生き生き描かせてみたいと考えた。「体操をしている友だち」。はじめて筆を使って描いた喜び。みんなのびのびと、楽しく体操している、動きのある友だちを、太い線で大胆に表現した。

この授業では、今までの発展として、大きな紙に、大きく、のびのびと、たくさん友だちをかかせてみたい。また、描材に、今までとちがって、大きい黒い紙で、白絵具を使い、またパネルには



「体操している友だち」

った紙に立ってかくことにより、新しいファイトでたちむかうであろう。
この授業を通して、今までよりいっそう、線でかく喜びをもたせ、また、かくことを通してものに気づかせることができるようになる。

小学校 2年

ボールおくりをする友だち

授業者 岩見沢小学校 多田 省三

授業へのねがい

教職経験だけからすれば、まあベテラン。このたびは全道大会という晴れがましい舞台で授業をすることになったが、デッサンとクロッキーの違いも判らない頼りなさ。きょうの授業も、市図工科サークルの先生に全面的に教えられ構想したものである。

本時は、「ボール送りをする友だち」であるが、前時の授業は「前へならえした友だち」であった。朱と黒の墨液の混合したものをえのぐ代りに筆でかかせたが、かくまえには友だちの動作を観察させ、また自分自身も動作化するようにして、それからかかせた。しかし、参観者がいて緊張でもしたのか、あるいは、前々時と異なりモデルがいなくて勝手に違ったか、作品のできばえは決して満足できるものではなかった。

きょうの授業は

ボール送りをする友だちのからだ全体の動きを把え、筆で線にかく楽しさがわかる — そんな授業をねらっている。子どもらは、果たしてどれぐらい指導者のねがいに到達してくれるか……。大胆で動きのある線の作品が生まれてくれることを願っている。

小学校 3年

にもつをかついでいるおじいさん
(物語風に)

=簡単な動作を見ながらかく=
授業者 岩見沢小学校 白幡貞郎

授業へのねがい

ヨーロッパでは至る所に文化の遺産である野外彫刻や壁画があり、それらの中で自然に美に対する目が養われていくと聞く。しかし、我が国はどうだろうか。児童を取りまく美的環境は目を覆うものがある。

そこで、少しでも児童の本来持っている美に対する憧憬をかきたてるべく(少々力み過ぎかな)学級の環境をそれらしく整えたり、一つのものでいい加減に見るのでなく、愛情を持って見、表現するよう取り組んでいるところである。

今までに、

- ①立っている人……人物に対する認識の度合いや、実体を知るためにかかせてみた。
- ②物をひろって……直立姿勢からの離脱をねらっている友だち った。
- ③友だちの部分……人物に感情やふんい気がでるような表現をさせた。

きょうの授業は

部分的に表現してきたことの発展として全体像をデッサンするのであるが、かくものをよく注意し、その感情やふんい気ができるように、どこまで迫れるか、かけてみたいと思う。

小学校 4年

釣をする友だち^{特徴や全体的なつり合}
いを見てかく

授業者 岩見沢小学校 渡辺千和子

授業へのねがい

この4月本校へ赴任し、学校や子どもに慣れることに精いっぱい私が、わけのわからぬうちに授業者になってしまった。

さあ、大変。何から始めたらよいのでしょうか。

1回め、スタンディングスタートをする友だち腕の曲がり方や、やや前かがみになっている姿勢と、前に力がかかる発見と表現に苦労した。

2回め 絵をかく友だち

特徴や動きをつかませ、できれば、一生けんめいに描いているふんい気まで表現させたいとねがった。

何回かの授業の中で、表現力は、ものをしっかり見つめることによって高まることわかった。

きょうの授業は

魚を釣っている友だちの全体的なつり合いと、その特徴をよくとらえ、重心のかけ方、ふんい気までとらえさせるように表現させたい。と、考えているのだが……。

小学校 5 年

ふりむいた友だち

— 明暗で量感をとらえる —

授業者 岩見沢小学校 渋谷 正美

授業へのねがい

“運命とは皮肉なもの”

研究大会の授業ほどシチメンドウなものはない。「自分だけは当たってほしくない。」そう思ったことが天罰か、造形大会の授業が大当たり。その日を境にして、我が身はまさに明暗の

一途をたどるに相成った次第。

今日の授業は本校図工カリキュラムに従って、二度三度と授業をしてきたステップである。

- ・線になれる (鉛筆・フェルトペン・コンテ)
- ・線のスピード・強弱の使い方
- ・人物を固まりとしてとらえる

の積み上げとして

- ・明暗で量感をとらえる

をねらった授業である。明暗も三段階ぐらいに区別できた作品ができれば (10点ぐらい) 成功した授業と思うことにする……



前時の作品

小学校 6 年

作戦をねる友だち

授業者 岩見沢小学校 田村 栄次

授業へのねがい

長い間低学年ばかり担任していて、今年6年担任に特進、すっかり低学年ばけしていてチヨロチヨロしているところへ“全道大会の授業者を”人間がおっちょこちょいだから「はい、わかりました。」と引き受けたはよいが、さて、どんな授業をおみせできるやら。

低学年の図工の時間は生き生きしている。作品も非常に楽しさがある。それが、高学年になるにしたがって、図工が好きだという子が少なくなってくるし、作品の面白さもなくなってくる。なんとかこの子たちに、図工の時間が楽しくて楽しくてならないものにさせてやりたい。

さて、人物デッサンでは、今まで“こしかける友達”で人物の動きに注意してかく学習を、また“かたを組む友達”で人物の動きやつり合いを考えてかくことをねらいとして学習した。

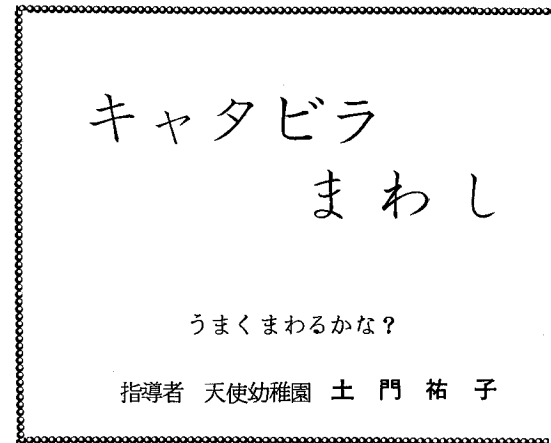
きょうの授業は

そこで、本時では今までの学習の積み上げの上に、3人の人物の重なり注意到、一つのかたまりとして描写することをねらいとし、合わせてコンテの特性を生かして明暗の表現もさせてみたいと思う。



前時の作品

・ 幼児 4 才児

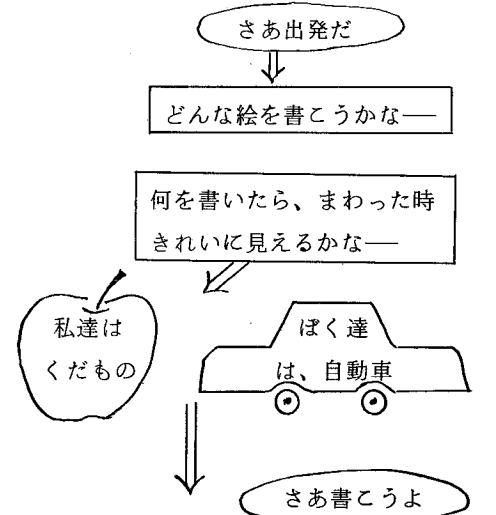


授業へのねがい

日常の製作は、手先の細かい作業が多く「こうしましょ」「はい、そこまで」「次はこうです」などと教師の言葉が多くなりがちです。それで、教師の言葉だけが少なくて、子供が生き生きと活動できる物を、と考えました。へたでも、失敗してもよい、自分達が一生懸命活動した事で、こんな楽しい事もできる。しかもいつもみんなが、なにげなく見ているダンボールでそれができるのだという事を知ってもらうためにキャタビラを作ってみる事にしました。

私が今一番困っている事

例年の事なのですが、絵のかけないと言う子がいます。色々なタイプがあるのですが、今年は、いつもの年より多くその指導に困っています。4才児ですと、どのへんに基準を置いて指導しているのでしょうか。



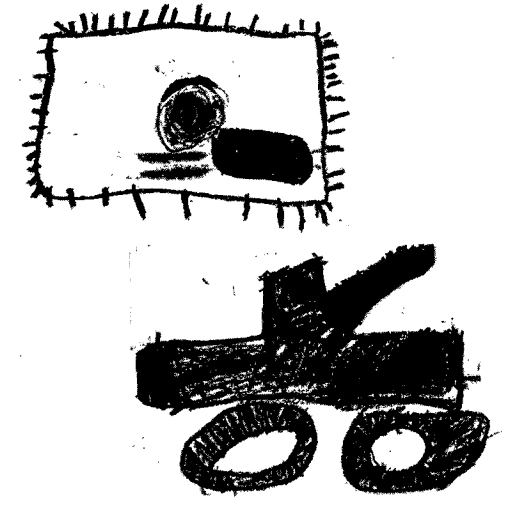
フェルトペンでおもしろいね
太い線が書けるんだね

できたよ、できたよ!

競争してみよう

ヨーイ・ドン

どこのグループが一番
まわるかな—?
○○ちゃん、がんばれ……



・幼児 5才児

洋服をかざろう

ぼくのわたしのすてきでしょ

指導者 天使幼稚園 前田 敬子

授業へのねがい

デパートや洋品店には かわいらしい模様が、ついていたりきれいな配色の子供服が色々あり子供達、そして大人達もしばしば目を奪われることがある。

人間には本性的に装飾の欲求があるが、既製のものでなく、この世にひとつしかない自分の手でつくった模様のついた服を着ることができたらどんなに楽しいだろう。

私がいま一番困っていること

子供達の中には好きな絵を喜んでのびのびとかいたりつくったりして喜んでいる幼児もいるがしりごみしてなかなかしない幼児もいる。集団生活の中で皆が表現意欲を充分満足し造形活動をするに喜びを感じさせるにはどのように指導すべきなのでしょう。

つくり方の図解と説明

さあ出発だ

みんな どんなもようにしょうか



「これ おもしろいかたちをしているね」

「ずいぶんいっぱいおしたね」

ほら わたしたちの服ができたよ



・幼児 5才児

さかなのくに

大きなさかなにまけないで!

指導者 天使幼稚園 津沢 弘子

授業へのねがい

幼児は泳ぎ方や変った生態をもつ魚について話を進めていくと大変興味をします。

そこで「たのしい魚を作ってみよう—」

「いっしょに泳げたら楽しいだろうな—」そんなことを想像しながら大いに、ユニークな魚をたくさん作ったり、からだごと遊ぶことを

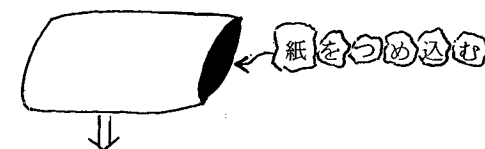
願い活動を開始致しました。

私が今一番困っている事

先日楽しかった運動会の絵を描いてみたのですが、なぜかあんなにも喜んで参加していたはずなのに「描けない」「わからない」の連発で白紙のままで黙り込み、結局楽しくかいた子は少なかったわけです。行事の絵をかく事は、今後も多いのですが、難しすぎるのでしょうか。

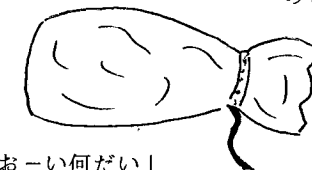
指導の面で色々と考えさせられました。

・さあつくろう—!



「テープやゴムをつかってしばって

みよっと」



「おーい何だい」

「わからないけれど……

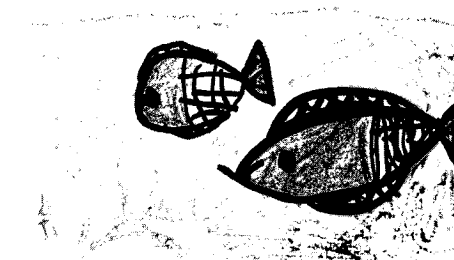
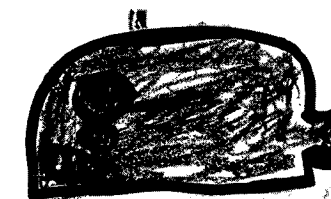
楽しいや」

「ワーイー さかなだ!

そうだ

さかながたくさん!

さかなのくにができたよ—」



小 1

粘土の中で あくしゅをしよう

「穴のあいた形から
何が できるかな」

授業者 岩見沢小学校 笹尾 寿雄

授業へのねがい

わたしは、きりわりの土手から、かかえるようにして、探ってきた、粘土を、田んぼの用水で、顔も手も足も、どろどろにしてこねた、粘土の感触を、いまでも忘れない。

1年生のこどもたちに、土の粘土、土から、こねあげた粘土で授業をすることをいつもねがっている。(×油ねんど×油ねんど×××……)

どろんこになって、粘土と遊ぶ姿、粘土で楽しむこども、そこから、土の造形へのみちびきが生まれるであろう。

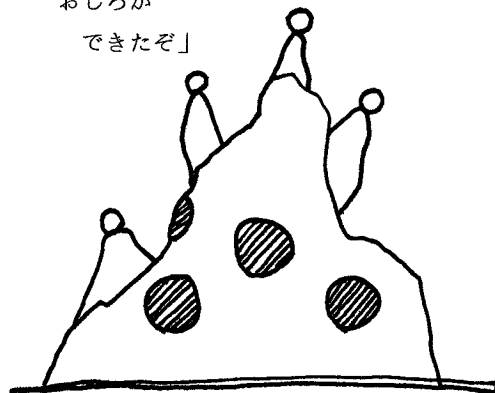
- ・にゅぐにゅぐな、粘土の感触を、この授業で、いっぱい味わせたい。
- ・かたまりに、力いっぱい手をつこんだ、こどもの、躍動を、この授業から求めたい。

授業の中から

1. ねん土のかたまりから、それぞれがねん土をひねりとして、グループでねん土の山をつくらう。

2. ねん土の山の中に、手をつこんでねん土をつかみとって、あく手をしよう。
3. さあ、この、かたちから、何が、できるかな。

「すごい
おしろが
できたぞ」



「。……………
……………
……………」



“だんだん
たかくなってきたぞ。”

2 3 日の授業から

小 2

はっけよい のこった!

授業者 岩見沢小学校 佐竹 史帆

授業へのねがい

体育といえば、きまって、野球かすもうという時代があった。

そのころの砂場は、もっぱら土俵として活用されていた。したがって休み時間のすもう熱も大変なもので砂場を使える子どもたちは、幸せな方、ほとんどの子が硬いグラウンドに土俵を作り長い列を作ってそれを取りかこんだものである。

砂場のようにやわらかくないことを知りながらもすぐに白熱して、思い切って投げとばし、はっとすることもあった。それでもけっこうけがもせず順番を待つために夢中になって立ち上がり並んだのを思い出す。

“土俵マット”の登場、さっそく遊ばせてやろうと、けしかけてもしりごみする子、負けても“えへら、えへら”と笑っている子のなんと多いことか。

はたしてこれでいいのか……………

物が多すぎる。過保護のママが…………と挙げても、けりのつく問題ではない。

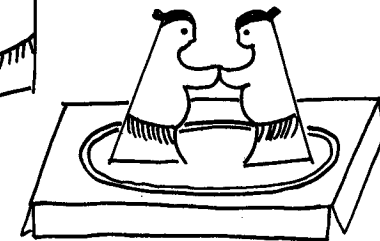
遊びを知らないのだ。遊びを教えていないのだ。

と痛感させられる。

そこでこの授業。日ごろの不十分さを穴うめするためにも、遊びの面白さ。夢中になってくふうすることの楽しさの味しめをしてくれれば成功。それ以上のことはねらわないことにした。

授業の中から

1. 二つ折りの紙に おすもうさんをかこう
2. 切り抜いて立つおすもうさんをつくらう
3. 四つに組ませて、土俵をたたいて、すもうをとらせよう。



“ころばない つよい
おすもうさんができるかな”



材料・用具

- ・はさみ
- ・サインペン
- ・クレヨン
- ・両面画用紙
- ・紙のあき箱

“鳥のはねがよく動くかな”

6月23日の授業

小 3

かわった鳥の 小鳥屋さん

授業者 岩見沢小学校 松田 剛

授業へのねがい

「オーイ飛んだか。」
「いや、あまり飛ばない。」
「どうしたら飛ぶのかなあ。」
これは 6月23日の「よく飛ぶ鳥」の授業
中の子どもたちの会話である。

……図工と聞いただけでも「またか」と重荷
に感じている教科であったが、色々試行錯誤
を繰り返しながら、また仲間に支えられなが
ら本日を迎えることになったのである。

本日の授業では、モビールの前段として
「つくりだした鳥」を糸の長短によって美し
くつくつことをねらったものである。更に、
このつるすかざりが、創造性を高め空間を飾
ることに発展し自分たちで自主的に環境を飾
ることができるように願っている。

私の願いが、本日の授業の中で、子ども達
の姿の中から、くみとっていただけるならば
幸いである。

授業の中から

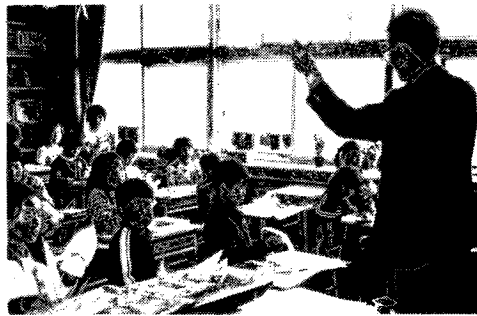
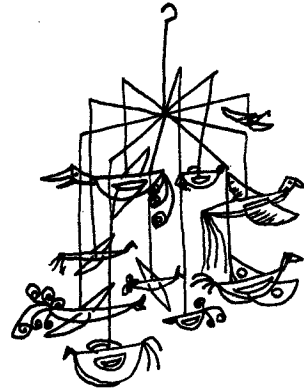
1. かわった鳥のかざりをつくって空間をかざる

計画をたてよう。

2. かわった鳥をつくりだそう。
3. つくりだした鳥を、糸の長さや、鳥の大きさを
考えながら 美しくつるそう。(本時)

準備

材料 両面画用紙 糸
用具 カッター はさみ 画板
輪のものほし、ホッチキス



“いろいろ くふうして
よくとぶ鳥をつくりましょう。”

6月23日の授業から

小 4

まわるロケット

授業者 岩見沢小学校 平山 竹男

授業へのねがい

お祭りや風車、鼻水たらして竹とんぼ、ノ
ート破いて紙飛行機と……わたしにとっ
ても懐しい「遊び」であった。

今回は、こうした風を受けて動く玩具の発
展として「まわるロケット」を子どもたちに
作らせることになったわけだが、指導案の流
れを考えながら、子どもたちの動きを予想す
るとき、ふと、自分の幼いころの姿もそこに
在るような気がする。

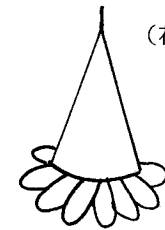
教え方は下手でも、とにかく、子どもたち
にこうした「遊び」を伝えよう、喜ばせてや
ろう。そして、自分もいっしょにむかしを味
わいたい。—— そんな心境である。

授業の中から

1. 色画用紙を使って、思い思いにロケットの
ボディを作ってみよう。

2. どんな羽根をボディにつけたらよく回る
のだろう。

3. さあ、グルグル回して遊ぼう。

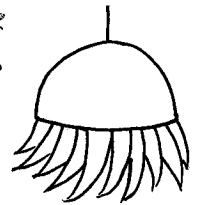


(花びら型ロケット)

★飛行士になったような
夢をもてるかな?

(クラゲ型
ロケット)

★違うのも作って遊ば
うという気になれる
かな?



“まわったときに
きれいな色になるような
こまをつくりましょう。”

小 5

つつだこを あげよう

授業者 岩見沢小学校 田中恒彦



グニャグニャだこ
わあ
あがた?
あがた!

“あがた。あがた。
空にあがると、どんな絵が
きれいかな。”

授業へのねがい

“たこあげ” 私たちが子どものころの楽しい遊びの一つでした。今の子どもたちにも、たこあげをして遊ぶ姿は見られますが、既製のしかも高価なものにすっかり心をうばわれています。

頭を使い手を動かし、自らの力で作り上げたもので遊ぶという喜びを知りません。

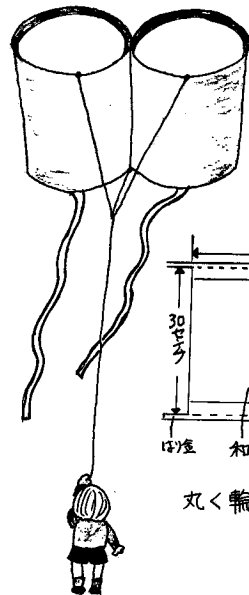
自分の作ったものが“空とぶ”なんと愉快なことではありませんか。

こんな楽しさと喜びを子どもたちが味わってくれたらと心から願っています。

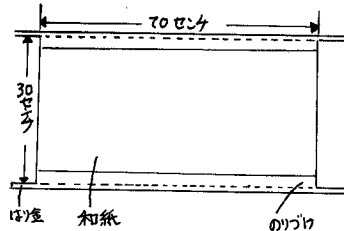
授業の中から

- ・グニャグニャだこが上がった時の喜びを今日の製作に結びつきたい。
- ・上がった時の美しさ楽しさを考えながら製作させたい。

◎作り方



・用意するもの
はり金(3m)
和紙(35cm×70cm 2枚)



丸く輪にして2つ合わせる。

小 6

マジックカード

「バタバタバタ……」
連続変化で何がでてくるかな」

授業者 岩見沢小学校 正岡辰郎

授業へのねがい

「自分の手で作り出す喜びを忘れたというよりは、既製のがん具やセット工作によって作り出されたものを遊びだと信じて疑わない現代っ子は、はたして“遊び”に満足しているのでしょうか。

その疑問から、忘れかけた伝統的な遊びにふれさせ、そのしくみや変化を求めらる中で、そのよさを伝えようと心がけています。

子どもは、初めてその不思議さに興味を示しながら、自らの手で作り出す楽しさ、おもしろさを味わいながら、目をかがやかすのです。

マジックカードはその一環としておさえ、連続変化の楽しさを現代的な感覚で発想の意外性を求めて取り組んでいます。

さてほんとうに意外性がどうとび出すかは見てからのおたのしみ!!

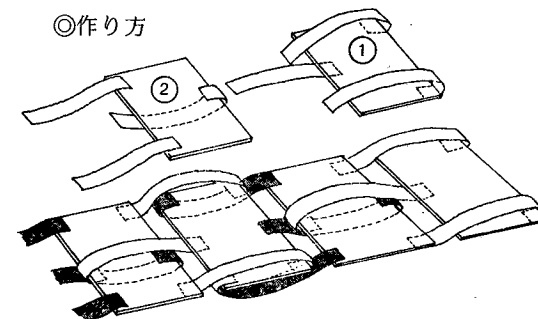
授業の中から

1. マジックカードの不思議でおもしろいしくみがわかったかな。
2. さあ、しくみを作り、出来上がりを予想し連続的で変化のある楽しいマジックカードになるように絵もていねいに書こう。
3. 出来上がったマジックカードを互いに見せ合い、連続的な変化のおもしろさを味わおう。

◎材料 用具

- ・のり
- ・はさみ
- ・黄ボール紙(9cm角 5枚)
- ・白テープ(11cm 12本)
- ・絵の具
- ・フェルトペン
- ・ものさし

◎作り方



“クル、クル、アニメーション”
絵のかきかた、まちがってないかな。

中 1

紙でつくる

「動くしくみを利用した案内状」

授業者 光陵中学校 加藤 勉

授業へのねがい

どのような教材であってもその内容に生徒の興味、関心をひきつけるものがなければ生きた授業に結びついていかない。子どもたちにとって遊びは能力のいかんを問わず、我を忘れるほどの魅力をもっているものである。

この点から考えれば、教材の内容に遊びの要素をくみあわせることは、いきいきとした授業をくみだてるための重要なポイントとなるはずである。

そこで案内状の制作の中に遊びの要素として「楽しく動くしくみ」をとり入れた。

紙を中心とした素材だけで動くしくみを工夫し、案内状にくみあわせること自体、生徒にとって困難を伴う面も多々あるがこれを克服することもまたあらたな発想の出発点ともなり、造形の喜びにもつながるものと考え。

ながれ — 10時間 —

- オリエンテーション……………0.5
紙の用途、性質 etc
- 基本的な動くしくみを知る……………2

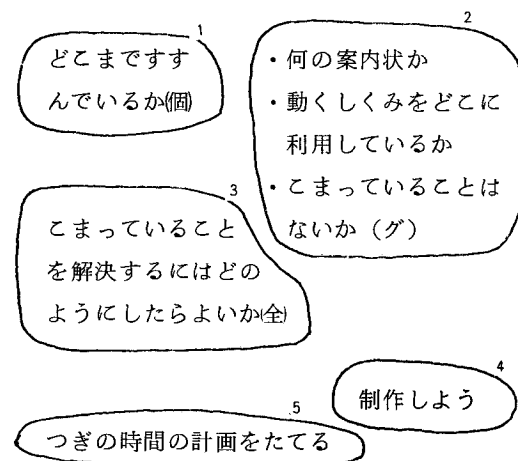


●構想をねる …………… 2

- ・案内状の種類
- ・形
- ・動くしくみを利用する場所

●試作する …………… 2

- ・試作…1. 構想をもとに全体の形をつくる
- ・試作…2. 本時(6/10)



●制作する…………… 4

中 2

—木でつくる—

動くハンガー

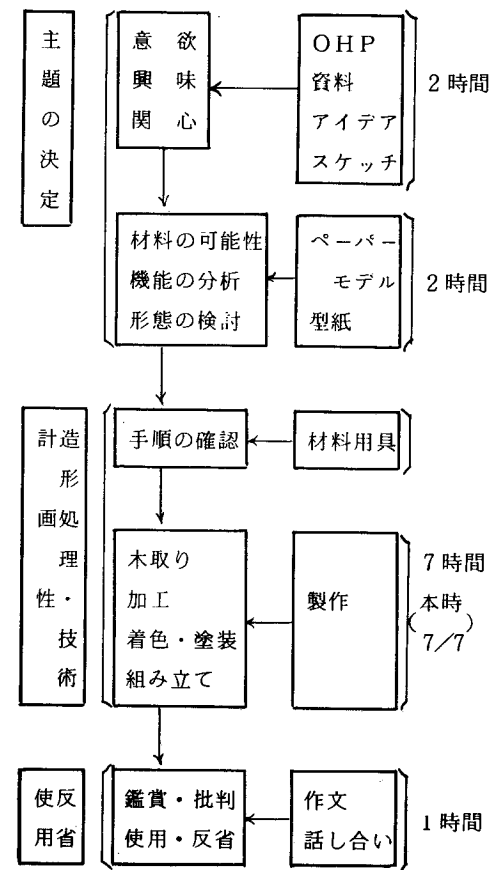
授業者 緑中学校 田中 敏雄

授業へのねがい

オリエンテーションで、教科書の題材からやってみたいものを選ばせたら「動くがん具」が第1位でした。

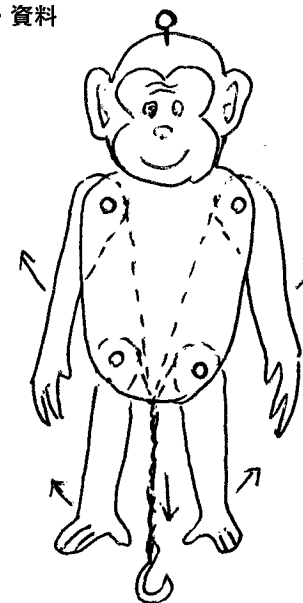
単につるすだけでなく、動かして遊ぶ、飾るといふ多目的な用途を考えて発想させ、計画的な手順や方法によってつくる楽しさや使用する喜びを味わわせたい。こんなねがいかから生まれたのがこの授業です。ハンガーが動くことによって「遊び」の要素が加えられ、意欲的に製作にとり組んでくれると思います。また、この題材は、① 木の特性を知り、それを生かすこと ② 男女共に興味をもって製作できること ③ 使う用途に直結したものであること ④ デザインから製作まで一貫した内容であること、などの条件を満たすことのできる内容をもった題材だと思います。

ながれ (12時間)



材料・工具・資料

ほお材(20×16×1cm)2枚、ポリパイプ、ヒートン、糸、ポスターカラー、茶粉、クリヤラッカー
糸のこ盤、ドリル、彫刻刀、ペンチ、カッターナイフ、木工ヤスリ、紙ヤスリ、OHP、TP、参考作品、資料ノート、教科書、



石をつかって

～かわった顔をつくらう～

授業者 岩見沢市立東光中学校
石崎哲男

授業へのねがい

マヤ、アスタカ、アフリカ、オリエント等の古代彫刻は、それなりに力強い生命力、素朴な美しさやおもしろさ、不思議な魅力を感じさせないでおかない。

古代人の心というか、情念というか、生や死に対する神への恐れ、祈りや願いが美的な要求と深くかかわり合い、古代人は、簡単にこわれない石に不変的、永遠的なものを求めて、その意志を刻み込んでいったものと解釈できる。そのように先人の石の文化をみていくなら、この題材を扱うことにより、石の文化に対する関心や理解を深める助けとなるのではないか……。

石をみつめ、不思議な変った顔をつくるための発想を大切にしたい。そのため彫塑的な量感均衡、動勢等はもちろんであるが石のすわり安定感、石の性質も理解させイメージを深めるため、遊びの要素であるおもしろさや楽しさを考慮して、強調、変形、省略、単純化等を工夫させたい。

最終の段階に向けては、人には身を飾る、装

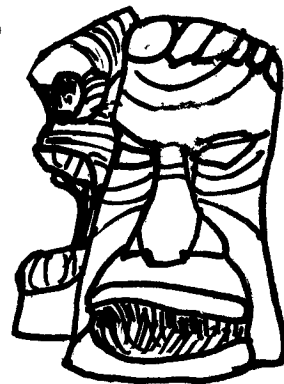
という本能的な要求もあることから、およそのフォルムができてから、それに合った自由な線彫を施し、楽しめるものに装飾していきたい。

ながれ 本時(9/12)

- 石をみて構想を練る 3時間
 - 石彫についての鑑賞
 - 白彫石について、石彫での心構え
 - イメージの工夫変形(口、鼻)
- 油粘土で構想を試作し見通しをつける…
 - 立体的表現のための工夫……………1時間
- 石にデッサンをする……………1時間
- 全体の調子を見ながら荒彫りする2時間
- 全体から部分へ調子を整えながら…彫り進む……………2時間
- 顔面を中心に線による模様で装飾する……………2時間
- 鑑賞、評価……………1時間

準備

- 布切れ、新聞紙
- くぎ類、ナイフ
- 玄のう
- 白彫石
- たがね(丸、平各1本)
- 木工やすり(8本)
- 電気ドリル



デッサンの指導 (小)

デッサンの考え方





デッサン(素描)といえば、一般的に絵の下絵とか絵がかかるようになるための練習と軽く考えられていることが多い。確かに絵や版画の下絵や練習の役目もあるが、それよりももっと大切にしたいことは外界の事物をとらえて描く行為によって自己の認識をどう深めていくかということである。いかにすると形態を見えたように表面的に描くというよりも、自分の形態の見方をどう表現するか、感動の表出を手の動きによってどう視覚化するかということである。この場合、子どもの意志や感情が動き、より主体的にかかわり合うことがたいせつで、そこに个性的な人間形成が期待できる。以上のような考え方にたって1.美しい生きた線2.量感や質感をとらえる3.動きをとらえる4.特徴やバランスをとらえる等の要素が学年の発達に応じて要求されてくるのである。(デッサンだけで独立した作品・デッサンのよい子は色もよくなる)

		1	2	3	4	5	6
ね ら い	ね	・線でかく喜びをもたせる ・かくことを通してものに気づかせる	・遊んだり、仕事をしたあとなどに印象をはっきりさせる ・おおまかな特徴に気づかせる	・簡単な動作を見ながらかく ・ものに触れたりして、質感にも気づくようにする	・特徴や全体をつり合いを見つけてかく ・質感をよく見つけてかく ・主となるものとまわりの組み合わせを考えさせる	・明暗や量感をとらえてかかせる ・ものともとの関係をよく見て、奥行きを感じをかく	・強調・省略・精密にかくなど表現の効果を考えてかかせる ・描材を生かした表現をさせる
		・先生やうちの人の顔 ・好きな友だち ・何かを持っている ・ぼく、わたし(友だち)	・ボールで遊んだ ・そうじ当番 ・給食くばり	・横向き・前・後向きの人(全身・部分) ・水を飲む友だち ・水のはいったバケツを持つ友だち ・しゃがんでいる友だち	・絵をかく友だち ・肩を組む友だち ・バットを振る友だち	・ものを使う友だち ・重なって見える友だちのようす	・動的、静的なポーズ ・群像
材	人	・線遊び ・動物 ・虫 ・動物	・線遊び ・いろいろな花 ・虫 ・動物	・校庭の木 ・電柱 ・高い塔や煙突	・並んでいる家 ・ふきのとう ・持ちもの	・重なっている家 ・自転車 ・玉ねぎの断面	・室内 ・室内と人物 ・ふきのとうの断面
		・筆(できたら) ・割ペン ・筆 ・サインペン ・クレヨン	・筆(コンテ)				
描 材	その他						
				習字の小筆			
紙 質 と 形		・画用紙・ザラ紙・ケント紙・色画紙・紙など ・画用紙の大小・長い形・正方形 など					

ある実践(小)

- ・絵画3年生のトレーニング例です。
- 集約する指導案はこの程度でよいのではないのでしょうか。
- ・貧しい実践ですが、視点の1、認識をたかめる実践の例ですので、参考にしてください。
- ・これは、指導案と記録を一緒にした例です。

「子どもコンピューターの実践」 3年生

教師	反応の予想	条件・手だて	記録
子どもコンピューターになる。 <ウソ発見機になる> どこがウソですか <右の絵>	○ダイヤルの円の数足りない ×指どめがない ○線が切れてるので通話できぬ ○受話器の下が不足		左の印のやくそく ○予想通り ×予想はずれ △どちらともいえぬ (場合によってはいろんな絵を提示します。見方や表現の悪いものを5分~10分)
今日の学習について話す。		動きをよく見る こまかいところに注意する。	
モデルをえらぶ 1. 右の手で右の耳をつかんでいる人 10分間 描くものを意識させる手だて 反省する 2. 右の手で左の耳をつかんでいる人 10分間 動きの表現とは何かを気づかせるてだて 反省する	○腕の運動感<くの字>はかける ○10分間で仕上げぬ子約半数 △耳をつかむ方の手が大きくなるだろう。 ○腕の長さが……右うでが左うでよりも極端に長くなるだろう。 ○全体に動きが出てくると思う ○このポーズなら、上体が曲がるがその表現は無理と思う。	 	後ろから見ていると ・モデルから目を離す時間の長い子ほど……概念的 ・紙からペンを離さないで見せるとよいようである。 形態感……かなりつかんでいる上の絵より首が曲がるように描けた。<気づいたようだ>  本当はこの線がこうなるのだが……描けた子が10名いた。 「上手な子」ほど描けてないのはなぜだろう? : 慣れで描くからでないか。 私……これで終わらましょ。生……え、もう終るの……1時間を短く感じたらしい。

粘土(彫塑)の指導(小)

	1	2	3	4	5	6
ねらい	・ねんどになされさせ、つくることの喜びと意欲をもたせる	・自分で作ろうとする形をはっきりさせ、まとまりのある表現をさせる	・自分の作ろうとする形の特徴を生かして表現できるようにする	・何をどのように作るか構想して作るようにする	・構想をまとめ計画的に仕事を進めることができるようにする	・いろいろな表現ができるようにする
指導要素	◎形や大きさを考えて、たおれないための丸味 ◎粘土の扱い方 ・つまみだす ・くっつける ・丸める ・のばす ・たたく	◎しっかりたつための工夫(しん材) ・くっつける ・つけたす	◎細部にとらわれない全体の形や量感 ・うごき ・かたまり ・対称をまわりから見る ・接合、寄せ合わせる ・付け加える	◎できあがりの作品を予想して、量感や特徴を表現 ・はね組のつくり方	◎対称のつり合い ・うごき、空間、量感材質の理解と生かし方 ・全体から部分へ ・指先でつまんでとる(カッティング) ・凹部に粘土を補う(モデリング)	◎量感、うごき 地肌、均衡などの表現の発展 ・全体から細部へ ・カッティング ・モデリング
題材選定の観点と題材例	・身近で興味のあるものから ・遊んでいる人 ・立っている人 ・座っている人 ・さか立ちをしている人 ・ねている人 ・動物、建物、乗り物など	・作るものの感じができるものから	・大づかみなどらえかたのできるものから ・物をもって立っている人 ・バケツをもっている人 ・バットをかついでいる人 ・パヨリンをひいている人	・かたまりとしてとらえられるものから	・うごきのあるものから ・動いている人 ・スタートの姿勢 ・すべりこみ ・すわっている人	・細部の表現を必要とするものから (群像)
材料・用具	・粘土 ・粘土板 ・ひも ・布 ・新聞紙		・粘土べら	・細木 ・糸 ・輪ゴム		
指導過程	○主題決定 ・どんなものをつくるか ・デッサンをする	○準備 ・使う材料用具 ・技法上の準備、理解	○制作	○完成・鑑賞		

デッサンの指導例 (小)

- 単元 デザイン「虫」 共同制作 ※時間配当は高学年の場合、低学年は少くなる。
- 単元設定の理由
デザインが単に図案から転化したものという考えを実践を通してとりのぞきたいのです。
小学校教育におけるデザインの考えを一つ、一つの実践を通して、確かなものにしていきたいのです。
おとなのデザインと教育の中のデザインは違うということをはっきりさせていきたいのです。
子どもたちの興味と、それからひろがっていく夢をどく自然なかたちで造形性に結びつけていくところを、「虫」を素材にしてやってみたいのです。：-虫の生活を共同で考えることを通して-
- 単元の指導計画
 - 第1次 生きた虫をもちよって、学習計画を相談し、虫のスケッチをする 2時間
・話し合いの目的→虫の集団が何かの目的によって行動している。それをグループで相談して、はり絵でしあげる。(技法はちぎり紙で)
・スケッチの目的→つかまえたとき、何にとまっていたのか、いろいろな角度から見るとどんな形をしているか、それを画面にどう描くとよいか。
 - 第2次 虫のスケッチをもとにして、グループの構想をまとめる。1時間
・意識の統一 → どの虫を使って、どんな所で何をしているのか。
・造形思考 → それを大きな画面にみんなで制作するためにはどう表現したらよいか。
 - 第3次 造形思考を通して、作業分担をする 2時間
・グループ思考 → 与えられた画面を前にして、自分たちの構想はこれでよいのか確める。
の追求と作業 → はるもの大きさ・色や形などから画面構成を考える。
手順の確認 → 個々の作業分担はどうするか。
 - 第4次 計画に従って制作する 4時間
1/4本時
 - 第5次 完成したものを見て話し合う。(鑑賞) 1時間
- 単元の見通し
・虫をよく知る ・発想を豊かにする ・大きな画面に対する画面構成になれさせる
・共同制作による社会性の育成
- 本時の目標
・グループの構想にしたがって、個々がグループに埋没することなく自分の個性を十分発揮しながら共同作業をする。
- 準備
・色紙 ・のり ・画用紙全紙又は半切(パネル) ・のり下紙 ・ハンカチ ・画板(共同制作用) 前時までの資料
- 本時の主な学習活動

学習活動	ねらい	留意事項
・グループごとに、前時までのことを確認本時は何をするかははっきりさせる	・本時の学習の確認をする。	・グループをまわって、しょうがい点を除去するために指導助言をする。
・のりについての話を聞く	・のりの使い方を知らせる	・のり下紙、ハンカチをうまく使わせる。のりはうすく、均一にのばす。
・グループごとの構想にしたがって制作する。	・本時の目標	・グループをまわって個別又はグループに形や色、画面構成技法などの指導助言をする。
・グループごとに本時の反省と次時の予定発表	・本時の反省と次時への発展の確認	・次時への方向づけをする

紙工作の指導 (小)

		1	2	3	4	5	6
ね	一般的に	・簡単なものを楽しんでつくりすることができる	・簡単なものをつくることができ	・いろいろなものを考えてつくりすることができる	・いろいろなものを考えて計画的につくりすることができる	・つくるものの目的を考えて計画的につくりすることができる	・つくるものの目的や美しさを考えて計画的につくりすることができる
	技法的に	・二つに折って切る ・つつから袋へ ・つつから箱へ	・カーリング ・折って切りひきのばす ・びようぶ折り	・ビルダーカード ・こぼづけ ・切っておこす ・穴をあける	・展開図 ・切り抜く ・簡単なしかけ	・シエル ・折って切り交互に折る ・切り抜いて反転	・いろいろな箱や紙製品から技法を発見する
	能力的に	・線をひかずに切る ・形をいろいろに見たてる ・簡単な袋や箱形ができる	・つけたしのくふうができる ・簡単な円柱や角柱がつけられる	・直線ぎりや折り目曲げなどを使うことができる ・簡単な組み立てができる ・円錐や直方体などからいろいろな連想をしてつくりすることができる	・円錐や直方体の変形ができる ・画用紙などで立体の計画ができる ・簡単な組み立てやしかけを考察することができる。 ・形と色のバランスを考察することができる	・立体設計を計画的にすすめることができる ・いろいろな紙の形や箱などの組み合わせを発見しそれをつかうことができる	・種々の技法を効果的に利用できる ・機能美に関心をもち工夫することができる
用	・はさみ、のり(澱粉) ・ホチキス ・洗たくばさみ ・牛乳のふたあけ	・はさみ ・のり(澱粉樹脂) ・ものさし	・定規 ・コンパス ・切り出し・カッター ・接着剤 ・パンチ	・ニードル			
用	取り扱 ・やまとのリーベトリとつけずにうすく・セメダイン・ボンド等一両面につけて手にべつたなくなつてから強く押しつける・手でつけない・使用法をよく読む。 ・はさみ一地点の近くでできる・定規一目りを見るとき真上から・線をひくとき→右から左へ、上から下へ・鉛筆のシン細く・カッター左右に傾けない。						
題	題材群	・題材についてはいろいろあるが分類すると①基礎的なものすなわち基本形(円柱・円錐・角柱・箱・直線や曲線・刻み目など)と基礎技能(折る、曲げる、切る、破る、組む)を組みあわせて動物・植物・虫・魚・建物などをテーマにして作るもの②機構的なもの(動くおもちゃ)③装飾的なもの(飾るもの)④構造的なもの(建物・動物)⑤機能的なもの(お面・帽子・箱)⑥構成的なもの(組み立て)等になるが、具体的な題材例については実践によって、それぞれ組み立てられるものであろう。					
材	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						

写生会の指導計画 (小)

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 大胆に形にとらわれずのびのびとかく 何(主題)をかいているかわかる絵をかく 自由ほんぼうな構図(視点) 大地の上にもものがある(ベースライン) 	<ul style="list-style-type: none"> 主題を明確にするために自分の好きなものを組み合わせてかく 線をだいじにしてなげやりにかかない 一部分を強調してかく(中心) こまかなところ(中心)大ざっぱなところ(周辺)をよく考えながらかく 	<ul style="list-style-type: none"> 構成を工夫し省略とこまかくかくところ、つけくわえるもの変形させるものなどをよく考えてかく 色調や描法などを工夫することにより自分だけでしか表現できない感情のこもった絵になるようにねばり強く努力させる
留 意 事 項	<p>◎主題そのものずばりをかく</p> <ul style="list-style-type: none"> あたりのものを見て歩く中で、かかせようと思うものをよく見せ話し合う 子どもたちに印象を強く与えるような言動を工夫する 線を大胆にかく中で太さ細さなどに変化をもたせる ワリペンと筆・クレヨンと筆等を併用してもおもしろい 色は形に色をそえる程度むりに全体をぬらせない 用具のしつけはきちんとする <p>※先生と話し合いながら見てきて教室でかく</p>	<p>◎主題とそのまわりをかく</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成に変化をもたせる(空がない・空を多く・上から見た・下から見た・中が見えるなど) 家・人など1つ1つ・1人1人ちがうのだということにきづかせる 物をおきかえたり。たしたりして画面構成を考えさせる 色をぬるとき、色の概念にとらわれない(空は青・木の葉は緑・土は茶など)で全体の調子はどうするかで考えさせる。特に灰色(白に黒チョッピリと他の色)と茶緑・赤の使い方にはきをつけさせる あまり全体をくわしくかきすぎると中心のない説明的なかたい絵になりやすい <p>※現場で下絵をかき、教室でしあげるしあげ4時間以上</p>	<p>◎主題をどのように構成するか</p> <ul style="list-style-type: none"> 線の変化(太細・強弱など) 変形・省略・つけ加えなどによる画面構成の工夫(大小・長短・軽重・広さ) こまかな所へも気を配る(煙・雲・アンテナ・窓・人物の動き・屋根のひさしなど)これは物と物とのちがいが実感等に関係するので重要 質感をつかむための技法の工夫(点描横・たてぬり・洗う・流す・にじみ・タンポぬり・こすり・筆以外のものでのぬりなど) 色調の工夫(統一・変化・強調など) <p>※現場で下絵4時間 教室でしあげ6時間以上</p>
用 具	<ul style="list-style-type: none"> ワリペン クレヨン 墨汁 朱墨汁 小皿 水彩 大筆 中筆 4つ切りの紙 	<ul style="list-style-type: none"> ワリペン 鉛筆 習字の小筆 すみ えのぐ 4つ切りの紙 使いやすい筆 木綿の水のすいやすい布 	<ul style="list-style-type: none"> 小筆 鉛筆 ペン へら 墨汁 インク えのぐ たんぼ スポンジ 布(木綿) 4つ切りの紙
題 材 と し て 予 想 さ れ る 場 所	<p>例。駅</p> <ul style="list-style-type: none"> 汽車 改札口 待合室 切符をかっている バスと人ののりおり 	<p>例。自動車修理工場</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場の中に自動車いろいろなむきでおかれているそこで溶接をしている人 車の下にもぐっている人 まわりにはタイヤやいろいろな道具がおいてある 	<p>例。屋上から</p> <ul style="list-style-type: none"> 高い建物 低い建物 高い煙突からは煙 高い塔 家々のかたまり屋根 屋根のリズム かさなっている丘が見える 木も見える
心 構 え	<ul style="list-style-type: none"> 学年・学級でメンミツな計画を立て、1人1人の子どもたちにしっかりと目標を与えるように教師は努力すべきである。 よい絵は児童と教師が一体になって、がんばっている中から生まれてくるものである。 		

環境デザインの指導 (小)

	1	2	3	4	5	6
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 飾る喜びを体験させる 遊びの造形と環境デザインを結びつけ環境へ関心をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> 教室や学級園など身近かな環境に働きかけ、飾り方をくふうさせデザイン感覚を養う 身近材料の生かし方を考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで話し合って共同の力で環境を飾り明るい生活を経験させる 創意を働かせ材料を生かして作る力を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 係や行事などの学校生活を通して身近かな環境デザインの意識を高める 協力して広い空間を飾る能力を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 環境を見る目を広げ新鮮な発想で環境に働きかける態度を養う 素材を効果的に使ってデザインする能力を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 学校環境への意識を深め立体的なデザイン活動ができるようにする 協力と計画的な作業を通して個人のデザイン感覚と能力を高める
題 材 例	<ul style="list-style-type: none"> 風車で飾る たなばたかざり 教室の出入口を飾る 教室の一隅を飾る 	<ul style="list-style-type: none"> 学級園を飾る 窓を飾る 天井からつるして飾る 	<ul style="list-style-type: none"> 廊下の壁を飾る 学級のしるし(ワッペンなど)で飾る 	<ul style="list-style-type: none"> 窓をスタンドグラスで飾る 係のしるしなどで壁を飾る 行事に参加して飾る 	<ul style="list-style-type: none"> 野外を飾る 校内の壁以外の空間を立体的に飾る(光や動きを利用して) 	<ul style="list-style-type: none"> (廊下ホール・体育館・玄関など)
製 方 作 法	<ul style="list-style-type: none"> 持ち寄り共同 		← 共 同 →			
材 料 ・ 用 具 例	<ul style="list-style-type: none"> 画用紙 色画紙 色紙 クレヨン はさみ のり ひも 糸 柳の木又はそれにかわるもの 竹又は木の棒 	<ul style="list-style-type: none"> 画用紙 色画紙 色紙 絵の具 布 ビニル はさみ 接着剤 細木 	<ul style="list-style-type: none"> 画用紙 色画紙 色紙 段ボール 色セロハン 布 ビニル はさみ 接着剤 ひも 細木 	<ul style="list-style-type: none"> 3年までのほかに 紙塑 厚紙 工作用具 	<ul style="list-style-type: none"> 4年までのほかに 木 石 金属 石膏 セメント 木工 金工 彫塑などの用具 	
視 点 と 場 の ひ ろ が り	<ul style="list-style-type: none"> 他教科・特活等と関連して計画、実践されることが望ましい 学級を飾ることからはじめて廊下・ホール……野外と目を広げさせたい 学級会→児童会→全校と高学年では自主的な活動に発展させたい 					

物語の絵の指導 (小)

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 物語の場面を明確にとらえ、説明的な表現をさせる 空間表現への画面構成の発展をさせる 児童の生活経験にねざした人間的で豊かなイメージを徐々に育てていく 	<ul style="list-style-type: none"> 物語を個性的に読みとり、主題をつかみそれを効果的に画面構成する表現のくふうをさせる 文学的な鑑賞を通しての感動をどのように表わすかの新しい技法の発見をさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 物語の内容の理解の充実をはかり、表現も視覚的・客観的な画面構成のくふうをさせる (そのためには物語の内容についても、表現についても、学習の話し合いの場で十分に共通思考をさせ、物の見方、つかみ方、表わし方の深まりが必要である)
題	便宜上わけただけで、与え方によってはどの学年でもねらいが違うので表現内容はかわってくる		
材	<ul style="list-style-type: none"> おおきなかぶ 手ぶくろをかいに (新美南吉) おむすびころりん (日本昔話より) かさじぞう (") こぶとりじいさん (") こびとのおくりもの (グリム童話) お月さまどろぼう (") はなのすきなうし (マンロー=リフ) あまのじゃく (日本伝説集) 長ぐつをはいたねこ (ペロー) 	<ul style="list-style-type: none"> はだかの王様 (アンデルセン) 子どもとくま (") 天狗のかくれみの (肥後の昔話) わがままな巨人 (オスカー=ワイルド) ちびくろサンボ (ヘレン=バンナマン) カモとりごんべい (日本昔話) 牛方とやまんば (") 不思議な太鼓 (") オッペルと象 (宮沢賢治) ねこと釜ふた (相模の昔話) 星の王子さま (サン=テクジュペリ) 森は生きている (サムイル=マルシャーク) ブレーメンの音楽隊 (ドイツ民話) ごんぎつね (新美南吉) 	<ul style="list-style-type: none"> 鼻 (宇治拾遺物語) ふるやのもり (日本昔話) 大きな白樺 (西郷竹彦訳) かっぱと長平さん (飛騨の昔話) どんぐりと山ねこ (宮沢賢治) セロ弾きのゴーシュ (") よだかの星 (") つるのおんがえし 白 鯨 (メルビル) せむしのこうま (エルジョーフ) 片耳の大シカ (椋 鳩十)
例	<ul style="list-style-type: none"> 紙の大きさと形 普通4つ切り・8つ切りだが葉書大の小さな画用紙や正方形や変形の画用紙にかかせることにより、想の変化や時間の短縮と画面への緊張感を期待できる 紙 質 色画紙・白ボール・和紙などを与えることにより、彩色のくふうや効果などを体験させる 用 具 絵具筆・習字の小筆・わりペン・へら・たんば・パス・クレヨン等による表現技法のくふう発見をさせる 		
題材の与え方	1. 先生が物語を選び、その物語を聞かせて絵にかかせる—教師が読む プリントを児童が読む テープやレコードを利用する—絵本やマンガにならないようにはじめて接するようなイメージの浮かびやすいようなものを選ぶ (文学性) 2. 先生がお話を作り、それを聞かせて絵をかかせる—絵になりやすいお話をつくる— (造形性) 3. お話の続きを児童が作って、そのようすを絵にかかせる (想像力) 4. 物語の流れを説明的に絵にかかせる—紙芝居・絵本・絵巻・デザイン的ななど— (共同作業) 5. 文字性・造形性・想像力などの要素をとりいれて、大きなものに画面構成させる (集団画)		
指導過程	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に 物語の内容を理解させる—構想をねらせる—下絵をかかせる—彩色させる—鑑賞させる 		

版画指導 (小)

	1	2	3	4	5	6
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 主題 そのものずばり うつるよろこび 形の組み合わせ 版形成 形の分解と総合 	<ul style="list-style-type: none"> 物と物との関係 地はだの発見 はり絵 	<ul style="list-style-type: none"> かたまりとして 材質美の発見 形の追求 	<ul style="list-style-type: none"> 主題と明確に 線と面の造形 彫る喜び 白と黒のパランス 	<ul style="list-style-type: none"> 構想をたてて 凹板印刷の経験 線と面の追求 技法のくふう 	<ul style="list-style-type: none"> 観察して 主題の追求 白と黒の美
版 種 題 材 例	<ul style="list-style-type: none"> 切り取り紙版 (かたおし) 動物 あそび 自分 うちの人 自由題 	<ul style="list-style-type: none"> 紙版 (こすりだし) あそび 自分 自由題 うちの人 くらし 	<ul style="list-style-type: none"> 切り取り紙版 (ステンシル) くらし あそび 人 自分 動物 	<ul style="list-style-type: none"> ドライポイント (木版) 仕事 学校生活 人 くらし 自由題 	<ul style="list-style-type: none"> 木版 (ドライポイント) 仕事 くらし 自由題 人 学校生活 	<ul style="list-style-type: none"> 木版 (ドライポイント) 仕事 学校生活 人 くらし 自由題
題材選り	全国的に多く取り上げられている題材、順位は上から…… 日本教育版画協会資料より このほか物語の題材やデザイン的な題材も考えられよう					
技法上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 切り取り紙版 1. 紙をちぎって形を作るとやわらかい感じになる 2. 紙をハサミで切ると明解になるが、かたい感じになりやすい 3. 質のちがった紙を2,3種併用するのもよい 4. するときは重い重たさかじめに色をいれないこと 	<ul style="list-style-type: none"> 紙版 1. 紙だけでなく布、あみ、ダンボール、糸などを使うとおもしろい効果がでる反面色々なものを使うとまともで主にするものを決めるとよい 2. 版画を見たときこれは何を思ったものか材質がわかるようにすりあげること色のつけすぎに注意すること 	<ul style="list-style-type: none"> ステンシル 1. 抽象形をもとにして、それらの部分を使って動物や乗り物にしていく (タンポを使って) 2. ステンドグラスのようにつなぎをのこして版を作る (高学年) 3. 多色づりにする場合は版を何枚かあわせて作るとよい 4. ローラーでもスポンジでもすりとれる 	<ul style="list-style-type: none"> ドライポイント 1. ニードルのつかい方のくふうをさせる 2. はがすときは厚く、うすく変化をつけさせる 3. 白い部分と黒い部分中間の部分に計画的に下絵の段階でハッキリさせておくこと 4. 凸板印刷を経験させてから凹板印刷を経験させる 	<ul style="list-style-type: none"> 木版 1. 下絵のとき、彫りあとを考えさせる (線の太さ方向など) 2. 刀のそれぞれの特徴をよく理解させておく 3. 彫る時刀を手や自分のからだのほうに向けなくて板をまわすようにさせる 4. 丸刀は走らせないで積みかさねていくように 5. 形のさかきをきちんと彫らせる (彫れたと思ってすって見ると形のはっきりしないことがある) 6. 下絵を習字の小筆を使ってすみの濃淡をかかせる。それを版木にのりをつけて裏がえしにしてはる。はるとき紙をこすらないでたたいはる 7. 版木にのりをつけるときむらなくつけさせる 	
指導過程	<ul style="list-style-type: none"> 準備— 版画の話し合いから準備するものをきめる 	<ul style="list-style-type: none"> 理解— 版画の工程を知り下絵を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 主題決定— 主題をきめて下絵をかく 	<ul style="list-style-type: none"> 版をつくる— くふうして版をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 刷り上げる— 刷ってみて悪いところをなおしてあげる 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞する くふうしたところやよくできたところなどを話し合う

絵画指導 (観察・構想) (中)

確かめる → 明瞭にする → 深める

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 直感や構想をすなおに表現する能力や態度を育てる 豊かな発想、まとまった主題鮮明な表現意図 表現のよこび 	<ul style="list-style-type: none"> 直観や構想を効果的に表現する能力や態度を育てる 豊かな発想 明確な主題 鮮明な構想 計画性のある表現 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に表現をくふうする能力や態度を育てる 深い発想、主体的個性的な主題 明確な構想 個性的な表現
題材例	身近な風景、樹木のある風景 友人 部屋の中の人 学校 家庭の生活 花 野草 野菜 器物 物語 伝説 民話をもとにして	広がりのある風景 友人たち スポーツする人 街 店 部屋の一隅 空想の世界 (フォトモンタージュ) モダンテクニックをもとに	奥ゆきのある風景 道 働く人 人物と物 学校生活の思い出 静物 (配置から) 夢、幻想の世界 詩画 抽象の世界
指導要素	<ul style="list-style-type: none"> 対象の形、色を全体と部分の関係でとらえる 線、明暗、陰影によって立体感材質感を表現する 材料、用具の特性を生かした表現をする 構図を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 対象の動勢をとらえる。色や形の変化と統一をはかる 材料、用具の選択とその特性に応じた表現 いろいろな表現形式や表現技法を知る 構成する 	<ul style="list-style-type: none"> 遠近による形の変化や物と物の相対関係、形、色の単純化と強調・意図的な材料用具の選択と使用 いろいろな表現技法を生かした表現 構想し、構成し、深める
材料用具	鉛筆 ペン コンテ パス サインペン ボールペン 水彩 墨汁 毛筆 画用紙 白ボール 色画紙 ケント紙 色紙 写真		
留意事項	観察を鋭く行なわせ、概念や記号を排除して、ものの実在をたしかめる。 表現のよこびを大切にす。	表現の意図を明瞭にし、表現効果を考えて表現する。 表現の多様性を知る 表現方法のくふうをはかり、材料用具の多角的な検討もしてみる。	個性的な表現をする 材料、用具の可能性を追求する。

版画指導 (中)

題材例	<ul style="list-style-type: none"> 観察による ＜友だち＞ ＜花と人＞ ＜木のある風景＞ 構想による ＜魚たち＞ ＜虫の世界＞ ＜鳥と人＞ 物語・詩から ＜岩見沢の民話＞ ＜アイヌ民話＞ ＜ギリシャ神話＞ ※ 絵画と共通に考える。
版種	凸版 (木・紙・ゴム・リノリウム) 凹版 (エッチング・ドライポンド) 孔版 (紙・原紙) その他 (併用版など)
技法	凸版: <ul style="list-style-type: none"> 転写: 下絵を画用紙、木炭紙などに濃くかかせ、プレスプリントより転写 彫り: 彫りくずは短かめを心がけされたし。刀を動かす方向に注意。点、線の集合で面が構成されるので、このことを意識させて彫ることが大切 刷り: インクは版面に平均につける。パレンは竹の目に平行におしつけると破損がない。※ 分解法による多色刷り。一版多色刷り。エッチングプレスで刷る方法。 凹版: <ul style="list-style-type: none"> 彫り: ニードルによる点・線・集合による面の表現を効果的に。 刷り: インクの拭きとりの練習が必要 (ためし刷り) 仕上げは手の平で。紙は厚手がよい。適当なしめりが必要。プレスのルーラー圧を平均に。 転写: 透明な塩ビ板では下絵の上に重ね、直接油性ペンでかき、うら返して彫れる。紙→表面を一層はぎとって製版する。 孔版: <ul style="list-style-type: none"> 下絵: 紙切りぬき版画。形が必ずどこかで外わくにつながるのがポイント 製版: 画用紙にクレヨンで線がき (線の太さに変化をつける) 刷り: スポンジ片にえのぐをつけてタンポ刷り。(かるくたくように) 低明度の紙に刷るときは、はじめに白えのぐで刷り、それから色刷りすると発色が良い。 ※ 原紙にピンホールをあけて製版する方法。切りぬき版を用いローラーでインクをつけ、パレンで刷る方法。かんたんシルクスクリーン版画。
材料	凸版: ベニア版 (シナ・ラワン) ・ゴム板 ・マニラボール ・画用紙 ・リノリウム 凹版: 銅板 ・アルミ板 ・塩ビ板 (クリヤー) ・マニラボール 孔版: 和紙 ・インク (油・中性) ・墨汁 ・石油 ・ポロ布 ・しんぶん紙 凹版: インク (油) ・腐蝕剤 ・ポロ布 ・厚手の紙 (和紙・画用紙) 孔版: 画用紙 ・色画用紙 ・原紙 ・クラフト紙 凹版: 水えのぐ ・スポンジ ・クレヨン ・のり ・セロテープ
用具	凸版: 彫刻刀 ・パレン ・小ふで ・ねり板 ・彫り台 凹版: エッチングプレスルーラー ・腐蝕剤用器 ・ニードル ・カッター 孔版: カッター ・パレット
指導要素	凸版: <ul style="list-style-type: none"> 下絵は製版の見通しのもとに描かせる。 ねらいにそった効果的な構成。彫る前に版面の状態が彫る部分が明確になっていること。 白黒のバランスは作品のねらいにふさわしいものであること。 刀のいきおいが作品のふんいきをつくること。 味わいのある絵をねらわせること。 凹版: <ul style="list-style-type: none"> 線、点、集合による面の表現に目をむけさせる。 彫りの効果 (ニードルの扱いの工夫) を考えさせ練習させる。 ふきとりの大切さ。 全体のまとまり、絵のみりよくを考えさせる。 孔版: <ul style="list-style-type: none"> 形のつながりがポイント 色の調和。 形の大たん単純化。 刷りの指導。 線の太さの工夫→味わい。
留意事項	凸版: デッサン、下絵の段階で作品の大半が決定されるので十分留意されたい。(ぼるところがはっきりわかる下絵) 凹版: ニードルの扱いはトレーニングしておくとい。
他	※ 題材及び版種は、各学年どこでとりあげてもよいと思うが、ねらうところが学年の発達段階に即したものである。(例) 1年＜魚たち＞ 紙切りぬき版画 2年＜虫の世界＞ドライポンド 3年＜岩見沢の民話＞ 木版画

デザイン指導 (中)

	1 年	2 年	3 年
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 色や形等による構成ができるようになる。 伝達のためや使用のためのデザインができるようになる。 デザインについての関心が高まり生活への応用、環境への適応及び美しいもの、よいデザインについて追求態度が育つようになる。 		
	<p>色の三要素や色の感情について理解し造形表現の基礎能力を養い色についての認識を高める。</p> <p>自然形を観察し新しい形を見つけたり、つくったりする力</p> <p>抽象形をもとに形を構成する。</p> <p>伝える目的を考え内容をより効果的に工夫し美的に表現していく技法や手順を構想にとり入れる態度を養う。</p> <p>使う目的と機能について考えデザイン条件を明確にする。</p> <p>使用しやすい形を工夫し親しみある形や色にまとめる。</p>	<p>色の効果、色の強弱、色の面積等を考え調和のある配色が工夫できる。</p> <p>構成、配色においてリズム、バランス、グラデーション、変化と統一等の美的秩序を意図した構成ができる。</p> <p>簡単な機能、構造等条件にして立体的構成ができる。</p> <p>伝達を目的とした構成は、より内容の精選、美的効果を工夫することができる。</p> <p>使う目的のデザインは条件に従った材料の精選と用と美の調和を図ることができるようになる。</p>	<p>色の機能的使用、効果を考え調和のとれた配色が工夫できる。</p> <p>色や形、材質等を総合的に扱い、秩序ある美しい構成を追求できる。</p> <p>機能や構造等を条件にして材料の造形的な可能性の追求とその結果を生かした構成ができる。</p> <p>社会的、公共的な条件を考えた構想を探求できる。</p> <p>デザインの良否を見分けられ、目的に合ったデザインを選び出すことができる。</p> <p>生活環境の中にあるものをより効果的に美しく配置配合したり生かしたりすることができる。</p>
視点 (留意事項)	<p>心情的なものを大切に気づかせる。</p> <p>日常の関心が高める、すなおな表現態度。</p> <p>主題をとらえる力。</p> <p>アイデアを集める力と構成。</p> <p>観察する力。</p>	<p>条件的な学習を中心に追求させる。</p> <p>条件性への関心を高め効果的に表わす態度。</p>	<p>総合的学習を中心に関連させる。</p> <p>社会性への関心が深まり主体的、創造的に工夫する態度。</p>
指導要素	<p>三要素、色相、色環 (3原色を中心とした混色技術)</p> <p>明度段階 (軽重) 彩度段階 (強弱) 寒暖、類似色相、同一色相、対象色相 (補色) 無彩色同志による調和した配色、主調色。</p> <p>自然物の形、観察の方法、形の見つけ方 (巨視、微視、近接等)</p> <p>線の種類、太い細い、継続、かさなり、主と従、省略</p> <p>リズム、バランス、グラデーション、ムーブマン</p> <p>視覚伝達の効果 (注目性と美)</p> <p>レタリング (明朝体、ゴシック体)</p>	<p>色の感情、対比、強弱、アクセント色の面積と主調色、ポスター、色と文字との組合せ、色の集中、拡散、発展</p> <p>単純化 (デフォルメ) 緊張、直線、曲線...による線の効果。</p> <p>グラデーション、形や色の段階的变化、リピテーション、形や色の変化と統一。</p> <p>透視図法、一点透視、造形要素への関心。</p> <p>モダンテクニック (マーブリング)、デカルコマニー、フロクサージュ、フォトモンタージュ、吹きながし、霧吹き</p> <p>明暗、陰影の変化による表示と意義。</p>	<p>色の機能的性、色彩調節、色彩管理、色彩感性の応用。</p> <p>色の進出、後退、対比、経時性</p> <p>室内設計 (遠近法、透視図法) 環境デザインについての意義</p>
題材例	美しい色と形 詩と絵 案内状、立体カレンダー	構成と色彩 パッケージ 技法を生かした構成 (モダンテクニック) くわしくかく (表示)	生活と色彩 (室内設計)
用具他	色立体 絵具 各種作品例 24色環図表 スライド	色立体 色環図 混色板 作品 スライド OHP	作品 スライド

工芸指導 (中)

	1 年			2 年			3 年			
ねらい	製作を通して	身近な材料を用いる。		材料の特性を生かす。			生活をより美しく豊かにするために材料の特性を生かす。			
	製作能力	製作する楽しさやそれを使い楽しさを味わわせる。		美しさを工夫して製作する能力を養う。			総合的に工夫して製作する能力を養う。			
題材例	身を飾る	ブローチ ペンダント ネックレス	木	切る 彫る 塗装する 材料→用途	ブローチ ペンダント ネックレス	金属 七宝 材料→用途				
	壁を飾る	壁飾り	木(板) 金属	切る 彫る 塗装する 材料→用途 ブラッシング 腐蝕 材料・技法→用途			壁飾り	金属 七宝 材料→用途	打ち出し 七宝 材料→用途	
材料	置く飾り (具象的)		土	手びねり、二つ割り	置く飾り (半具象的)	土	板づくり (まく、曲げる、接合する)	置く飾り (抽象的、オブジク)	土	二つ割り、板、ひも等各種 彫る、組む 材料→用途
	つるす飾り		木 (塊)	彫る 材料・技法→用途		木 (板)	組む 木材→用途		木 その他 金属	打ち出し 材料→用途
技法等	机上や食卓で使うもの	鉛筆立て レタースタンド コップ敷き	土 プラスチック 木	手びねり 材料・技法→用途 曲げる (加熱) 組む 用途→材料 彫る、積層 材料→用途	筆記用具を整理するもの 立体カレンダー	土 各種材料	ひもづくり 板づくり 用途→材料 組む、積層 材料→用途	メモ台 エッグ スタンド	各種材料 木	総合 用途→材料 組む 用途→材料
	その他の生活空間で使うもの	花器 (具象的) 小物入れ	土 紙 (ひも)	手びねり 施釉、焼成 材料→用途 巻く、よる、あむ ほぐす 用途→機能	花器 (基本形的) かご 小物入れ	土 紙 (ひも) 木	板づくり (巻く、曲げる、つなぐ) 材料→機能 編む 組む 材料→機能 彫る、積層 用途→材料	小物入れ 間じきり 照明具	金属 各種材料	接合、打ち出し 材料・技法→用途 総合 用途→材料 総合 用途→材料
その他					動くおもちゃ	各種材料	組む、接合 用途→機能			

彫 塑 指 導 (中)

彫 塑	1 年	2 年	3 年
対 象	◦対象の立体的な美しさをとらえすなおに表現させる。	◦対象の比例、均衡、動勢などの美を構成する要素に着目し表現させる。	◦対象の量と空間とのバランスを強調したり、単純化した形を表現させる。
構 想	◦経験したこと、考えたこと、感じたことをもとにして自由な構想をいきいきと表現させる。	◦材料の特性を生かして、構想を明確に表現させる。	◦構想を主體的に深め、強調、省略などして表現させる。
技 能	◦量感、比例、動勢の基本的な技能を習得させる。	◦量感、比例、動勢が造形上たいせつな要素であることを感覚的にとらえ表現する技能を習得させる。	◦構想を表現するための効果的な技能を習得させる。
題 材 例	◦野菜 ◦すわる人 ◦魚 ◦友だち ◦とぶ鳥 ◦働く人	◦わたしの手 ◦いろいろな手 ◦友だちの顔 ◦運動する友だち ◦鳥 ◦昆虫	◦ポーズする人 ◦動物 ◦群像 ◦記念像 ◦学校生活の思い出 ◦空間を生かして ◦鳥と遊ぶ
指 導 要 素	対 象	◦対象物をまわりからよく見て、対象の基本的な成り立ちを考えさせたり対象のもつ量に対する鋭敏な感覚を自然に身につけさせる。 ◦自然や身近なところにも立体的な美しさがあることを発見できるように基本的な態度を養う。	◦対象をいろいろな角度や方法で観察し、対象のもつ立体的な美しさを効果的に表現するための具体的な手順を考えさせる。
	構 想	◦あらかじめ表現したい立体を予想しながらそれを平面上にあらわし構想を十分ねらった上で主題をまとめ、表現のねらいを鮮明にする。	◦生徒の記憶や印象を中心にして計画的な手順で自分の構想を自由な気持ちで表現させる。
	技 能	◦対象の中心や前面、側面、背面などの観点から対象をとらえ、それを表現に生かす工夫をさせる。 ◦肉づけの方法の相違による作品の感じや量感の相違などを理解させ、これを表現に生かす能力をつける。	◦球体や立方体、円柱や円錐、角柱や角錐などの基本的な形を対象の中にも統一感のある表現を工夫させる。
技 法	◦まる彫り ◦テラコッタ	◦うき彫り ◦石こうじかづけ ◦まる彫り	◦まる彫り ◦石こうどり
材 料 用 具	◦硬化粘土・彫塑べら ◦ピニール ◦制作台 ◦焼成用粘土 布 ◦モデル台 ◦木(桂・朴) ◦回転台 ◦のみ ◦ケント紙 ◦金づち ◦小刀 ◦定規 ◦はさみ ◦ホチキス ◦接着剤 ◦コンパス ◦発泡セメント	◦石こう ◦石こう用具 ◦ピニール ◦針金 ◦制作台 ◦のみ ◦彫刻刀 ◦のこぎり ◦木づち ◦軟石 ◦金づち ◦布 ◦木(桂・朴) ◦ペンチ ◦麻ひも ◦ハンダごて ◦金床 ◦アルミ板	◦粘土 ◦芯材 ◦石こう ◦きりがね ◦制作台 ◦布 ◦紙ねんど ◦麻ひも ◦彫塑用具 ◦へら ◦ペンチ 一式 ◦白色セメント ◦砕石 ◦金づち ◦こて ◦軟石 ◦シャベル ◦たがね
留 意 事 項	◦ばくぜんと対象を見るのではなく、光の方向、全体と部分のかわりあいも見る。 ◦技巧に走らさず、あくまで自分の心情や構想を生かした表現ができるようにする。 ◦木や石のような塊材や金属のような硬材も利用する。	◦視覚だけでなく、触覚を通して対象をとらえさせ。 ◦材料や用具の特性を生かして表現意図の明確な彫塑をつくれるようにする。	◦表現意図に適して材料、用具を利用する。

分科会構成

	分科会	共通テーマ	ガイドグループ(司会・提言)
1	幼・保 4才	・遊びの造形を子どもの	・羽田野孝子(札幌栄光幼稚園)
2	" (1年年長) 5才	学習や生活に どう	・大谷邦彦(札幌もみじ台幼稚園)
3	" (2年年長) 5才	とりいれるか	・竹下満喜恵(札幌円山幼稚園)
4	小(低) A	・どうしたら、子どもたちが 生き生きとして	・中村多恵子(砂川中央小)・手島とも子(滝川第一小) ・八木橋哲郎(峠下小)・長野祐平(信濃小) ・岩田 宏一(標津小)・桐沢 亨(北斗小)
5	" B	造形活動にとりくむか	・佐藤 光正(赤間小)・佐藤 久子(芦別緑ヶ丘小) ・山谷 礼司(亀田小)・石垣由美子(上湯川小) ・側瀬宇太郎(羊ヶ丘小)・高杉正和(新川中央小)
6	" C	<認識・系統・領域から 考えよう>	・庄 栄一(江部乙小)・渡辺 貞之(妹背牛小) ・藤木 邦啓(千歳高台小)・藤井正治(江別第二小) ・鈴木 将夫(和光小)・長津喜代(伏見小)
7	小(中) A	<作品を通して話しあう>	・紅林 弘昭(空知太小)・橋本保隆(空知太小) ・笠原 金一(伊達西小) ・鶴賀 孝三(駒岡小)・毛馬内国夫(月寒東小)
8	" B		・中里 馨(栗山小)・関 尚仁(滝川第一小) ・大友 一夫(平取川向小)・越後光雄(高静小) ・福井吉三郎(明星小)
9	" C		・田上 功(奈井江小)・横井 保(月形小) ・金子 正(清水小) ・池本 良三(若草小)
10	小(高) A		・森谷 一(砂川小)・佐々木賢明(豊沼小) ・野呂 憲一(若松小)・橋場昌三(藤山小) ・中川真一郎(枝幸小)・佐々木 恵(増毛小)
11	" B		・楠野 満(由仁小)・広川 明男(浦臼小) ・原 良三(愛宕小)・佐藤吉五郎(西野第二小) ・佐藤 靖(琴似小)・旭川工美術小学校部会
12	" C		・有村 尚孝(鹿の谷小)・水谷 淳(深川菊水小) ・藤井 常雄(稚内港小) ・白井 閑豪(豊水小)
13	中学校 A	絵画・版画	・寺谷 安雄(妹背牛中) ・山本 紘正(瀬城中)・枝広健二(美唄中) ・武田 貢(北辰中)・諏訪 英雄(東中) ・猪狩 肇基(北白石中)・荒谷 博文(白石中)
14	" B	彫 塑	・野沢 紀義(滝川江陵中)・渡辺 稔(奈井江中) ・石岡 博昭(啓明中)・広沢正俊(簾舞中) ・板東 軍治(苫小牧東中)・佐藤公毅(啓北中)
15	" C	デザイン・工芸	・川越 康男(沼田中)・三浦恭三(三井美唄中) ・稲船 正男(景雲中)・阿部 将(桂恋中) ・浜田 五郎(泊中)・田丸公記(寿都中)
16	高 校		・中村 矢一(月寒高)・富樫浩平(啓成高)

※[A・B]→絵画・版画を中心とした分科会

[C]→デザイン・彫塑・工作を中心とした分科会

実技コーナー

コーナー	担当	内容
1 やきもの	塚本貞男	かんたんな焼きものをつくってみましょう。
2 動くおもちゃ	森川昭夫	基本になるようなやさしい実技です。
3 版画と民話	斉藤 恵	版画製作のコツを、手を動して覚えましょう。
4 紙工作	伊藤 恵	小学校の教材を主として作ってみましょう。
5 体験学習室	田家靖久次 山本美次	むかしなつかしい吹き矢やコマのコーナーです 実際に作ってみましょう。
6 フレッシュ	佐藤吉五郎	先生になりたての方。造形というものがサッパリ わからないという方、歓迎。
7 造形病院	幼児…長谷川 伝 小学生…金井 秀男 中・高…小山田 武	造形のなやみごと相談所です。作品をもってど うぞ。カルテを書いてくれます。
8 デザイン	佐野千尋	新しいデザインを体験してみましょう。

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

大会役員

- 名誉大会委員長 成田 虎男 岩見沢市教育長
- 大会委員長 高橋 栄吉 造形連盟委員長
大会副委員長 徳梅英次郎 空美研会長
荒谷 満夫 岩見沢市
教育振興会会長
伊藤 慶二 岩見沢市校長会長
辻 悦平 造形連盟事務局長
戸田 省吾 岩見沢市教頭会長
松本 文明 岩見沢市幼稚園代表
田村 宏 岩見沢市高校代表
斉藤 富男 滝川第一小校長
- 大会運営委員長 浪田 博 岩見沢小学校長
大会運営副委員長 渡辺 昇 志文小学校長
本田 哲也 茶志内小学校長
加賀谷政治 岩見沢小学校教頭
- 運営委員 原田 隆興 岩見沢小学校
三谷 信男 中央小学校
山本 真悟 南小学校
山田 稔 第一小学校
花田 国明 美園小学校
和野 勝 日の出小学校
小松 光男 志文小学校
藤本 信也 上志文小学校
松田 勤 朝日小学校
金沢 重雄 毛陽小学校
福田 忠夫 第二小学校
風岡 一哉 幌向小学校
井内 政治 東小学校
日向 清 稔小学校
藤島 晃 大願小学校
中島 俊一 東光中学校
庄司 守一 光陵中学校

- 運営委員 一条 健二 緑中学校
樋口 孝一 志文中学校
梅内 信夫 栄中学校
石塚 喜法 上幌向中学校
沼上 忠夫 豊中学校
目黒 光世 天使幼稚園
山内 敏雄 市教委管理学務課長
鈴木 淳夫 市教委指導室長
井上 周三 市教育研究所員
吉村 隆次 空知教育局指導課長
宗広 義彦 空知教育局指導主事
田家 靖久 空美研事務局長
山本 美次 空美研研究部長

- 事務局**
- 事務局長 早弓 弘行 南小学校
事務局次長 宮川 美樹 東光中学校
堂下 拓美 中央小学校
事務局員 金野 稔雄 岩見沢小学校
横山 徹 第一小学校
楠見 隆 朝日小学校
青山 清輝 岩見沢小学校
小松 光男 志文小学校
椿 弘司 第二小学校
青竹 栄子 毛陽小学校
田中 敏雄 緑中学校
富所 孝一 幌向小学校
井内 政治 東小学校
増沢 実 栄中学校
宮川 登 岩見沢小学校
玉木 憲治 光陵中学校
内田 暢一 南小学校

総務部

部長 金野 稔雄 岩見沢小学校
 副部長 横山 徹 第一小学校
 楠見 隆 朝日小学校
 部員 長田 マサ 第一小学校
 新津 義昭 南小学校
 鎌田日出夫 中央小学校
 津沢千恵子 第二小学校
 出口 秀喜 岩見沢小学校
 河内 省八 “
 竹内美津枝 “
 中尾 知幸 “

研究部

部長 青山 清輝 岩見沢小学校
 副部長 小松 光男 志文小学校
 椿 弘司 第二小学校
 青竹 栄子 毛陽小学校
 田中 徹雄 緑中学校
 部員 照井トミエ 第一小学校
 板橋 和子 中央小学校
 岩井 正明 美園小学校
 石山 博之 美園小学校
 石崎 哲男 東光小学校
 田村 栄次 岩見沢小学校
 白幡 貞雄 岩見沢小学校
 大谷 武 中央小学校
 加藤 勉 光陵中学校
 西平由紀子 上志文小学校
 田村 宏 緑陵高校
 根岸 安三 緑中学校
 越沢 和子 南小学校
 新谷 和恵 志文中学校
 石崎 覚 日の出小学校
 原田 隆興 岩見沢小学校
 長谷川正義 “
 北口 邦子 “
 兵井 昭一 “
 中村長五郎 “

庶務部

部長 富所 孝一 幌向小家校
 副部長 井内 政治 東小学校

増沢 実 栄中学校
 部員 今井 四郎 朝日小学校
 木村 一成 日の出小学校
 藤本富喜子 第一小学校
 大盛 昭秋 第一小学校
 岡 妙子 中央小学校

広報部

部長 玉木 憲治 光陵中学校
 副部長 内田 暢一 南小学校
 部員 長谷川元春 岩見沢小学校
 大江 慶典 南小学校

会場部

部長 宮川 登 岩見沢小学校
 部員 佐藤 郁男 “
 井上 義浩 “
 大谷 幸弘 “
 小室 公子 “
 橋本 忠司 “
 山田美津子 “
 福田 節子 “
 田中 孝憲 “
 三谷 信男 中央小学校
 山本 真悟 南小学校
 山田 稔 第一小学校
 花田 国明 美園小学校
 和野 勝 日の出小学校
 藤本 信也 上志文小学校
 松田 勲 朝日小学校
 金沢 重雄 毛陽小学校
 福田 忠夫 第二小学校
 風岡 一哉 幌向小学校
 中島 俊一 東光中学校
 庄司 守一 光陵中学校
 一条 健二 緑中学校
 樋口 孝一 志文中学校
 梅内 信夫 栄中学校
 石塚 喜法 上幌向中学校
 沼上 忠夫 豊中学校

会計部

部長 内田 暢一 南小学校
 ※授業者前掲

全道造形教育研究大会の
開催地と研究主題一覧

札幌市立白楊小学校
辻 悦平 記

- ・第1回(札幌) 情操教育の一環として本道図工教育の進展をはかるため。
- ・第2回(札幌) 美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- ・第3回(旭川) 美術教育の指導とは何か。
- ・第4回(函館) 図画工作教育実践上の諸問題について。
- ・第5回(釧路) 図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- ・第6回(札幌) 造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- ・第7回(室蘭) のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- ・第8回(小樽) 図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- ・第9回(帯広) 新段階における造形教育のあり方。
- ・第10回(網走) 本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- ・第11回(滝川) 子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- ・第12回(名寄) 子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- ・第13回(余市) 子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- ・第14回(札幌) 子どもの造形能力とは何

- か。
- ・第15回(稚内) 子どもの造形能力とは何か。
- ・第16回(室蘭) 子どもの造形能力とは何か。
- ・第17回(函館) 指導の構築を具体化する。
- ・第18回(苫小牧) “
- ・第19回(札幌) 造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- ◎第20回(旭川) ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- ◎第21回(札幌) 造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- ・第22回(帯広) 未来に生きる子どもの造形教育(生活に根ざした造形表現をどう高めるか)
- ◎第23回(室蘭) 未来に生きるこどもの造形教育(ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか。)
- ◎第24回(美幌) 未来に生きるこどもの造形教育(たしかな表現力をどのように育てるか。)
- ・第25回(江別) 未来に生きる子どもの造形教育(自ら創りだす力をどう育てるか)
- ◎第26回(岩見沢) 未来に生きる子どもの造形教育(すべての子どもに造形によるこびを)
- ・第27回(札幌) 第30回全国造形教育研究大会とかねる。
(昭和52年7月29.30.31日)
- ・第28回(函館) 主題未定、その他準備中

空美12年のあゆみ

— いろんなことがあったけれど
みんな よく やったなあ —

創設期 昭和39年 ～昭和42年

- 39・4 ○ 「語る会」北・中・南三地区サークル委員長が集り、空知の交流を深める会を持つ語り会 — 山本栄蔵（現夕張遠幌小）
一の戸信雄（現沼田恵北島小）本田哲也（現美唄茶志内小）
- 39・10 ○ 南空知図工サークル委員長、本田哲也氏副委員長 三浦恭三氏らによる「子どもの作品を語る会」要項発行。
- 39・11 ○ 第一回「子どもの作品を語る会」と称す — 栗沢小学校
- 40・11 ○ 第二回「語る会」 — 滝川第1小学校
- 41・9 ○ 第三回「語る会」 — 深川小学校
- 42・9 ○ 第四回「語る会」 — 北村小学校

- ・ 手弁当と絵をひっさげて、500円の会費（未だに）で、語ろうじゃないか。
- ・ 子どもの絵を通して。決っているのは、場所と期日だけ、とにかく集まろうや。
- ・ 語れやあー 何か分かるだろうさ。
- ・ おれもいくかな？ いこうか？
- ・ たくさんの子らの作品を見て語りに。

昭和43年 発展期 ～昭和46年

- 43・ ○ 『空知美術教育研究会』として、発足。
= 空知の図工・美術教育者が、「語る会」四回を足場に、ひとつにまとまる。=
- 初代会長 東出芳夫氏
事務局長 早弓弘行氏 就任す。
- 43・9 ○ 第五回「語る会」 — 芦別小学校
- 43・10 ○ 「教育奨励賞」受ける。
- 44・8 ○ 機関紙「空美 1」発行
- 44・9 ○ 第六回「語る会」 — 深川納内小学校
- 44・11 ○ 二代目会長 本田哲也氏
事務局長 和田竜郎氏 就任

- 45・9 ○ 第七回「語る会」 — 美唄市民会館
- 46・2 ○ 彫塑実技研修講座 — 研修センター
・ 講師 埼玉大 木下 繁氏
- 46・3 ○ 空知教職員美術展 — 岩見沢 IHK ギャラリー

- 46・4 ○ 本田哲也氏 クエート日本人学校長として、派遣さる。
- 46・5 ○ 三代目会長 徳梅英次郎氏（現美唄東小）
- 46・9 ○ 第八回「語る会」 — 岩見沢市民会館

- ・ おれのつくらせた絵を見て！
- ・ はずかしながら 持ってきたよ。
- ・ 的を少なくしたら いいよ。
- ・ 指導しすぎたね、この絵は。

充実期 昭和47年 ～昭和50年

- 47・1 ○ ゼミナール — 研修センター
- 47・2 ○ 金子忠昌氏 逝去さる
- 47・5 ○ 裸婦デッサン会 — 美唄市
- 47・9 ○ 第九回「語る会」 — 栗山小学校

- 47・11 ○ 巡回美術展 開催
- 48・8 ○ 事務局長 交替 — 和田竜郎氏から 川村恒夫氏へ、そして田家靖久氏へ。
- 48・9 ○ 第十回「語る会」 滝川福祉会館

- 48・9 ○ 機関紙「空美 2」発行
- 48・10 ○ 講演会「美術の今日的課題」
・ 講師 道立美術館長 倉田公裕氏
・ 研修センター

- 49・1 ○ ゼミナール — 滝川 研修センター
- 2 ○ デッサン会 — 深川
- 5 ○ 総会
- 9 ○ 第十一回「語る会」 — 雨竜中学校
- 50・1 ○ ゼミナール — 岩見沢 万景閣
- 2 ○ デッサン会 — 岩見沢
- 3 ○ 本田哲也氏 — 帰国

- 50・9 ○ 第十二回「語る会」 — 由仁小学校

昭和51年～ 激動期

- 51・1 ○ ゼミナール — 岩見沢 玉泉園
- ・ 2 ○ 裸婦デッサン会 — 滝川
- ・ 3 ○ 藤原 明氏（理事）永眠される
- ・ 3 ○ 真田七郎氏 浅野日出男氏 退職
- ・ 5 ○ 総会
- ・ 10 ○ 裸婦デッサン会 — 岩見沢

空知子どもの作品を語る会誕生の記

。むすび合い、みがき合っていく空知の美術教師なかま。

ひとりのつぶやきが……………

美術の教師というのは、ともかく、いろんなことを考えだすもので、それは、だいたい職場で、まじめに勤務をしているときではなく、一日の終わりを終え、ノレンなどをくぐったときにひらめくのです。

39年の春、美術サークルの中心になって活躍をしていた、山本栄蔵氏（北サークル委員長）、一ノ戸信雄氏（中サークル委員長）、本田哲也氏（南サークル委員長）の三人が、滝川のある「そばや」の二階に集まって空知三地区図工美術サークルの三役会議を持ったおりに、だれともなくつぶやいた一言が、この会を誕生させるきっかけとなったのです。

「図工、美術教育のあり方」という理論だけふりまわすのではなく、作品を手にとって「子どもを語るような素材で直接的な話し合い」がほしい。三人はいちもにもなく賛同し、さっそく道造形教育連盟本部の協力も依頼し第一回「空知子どもの作品を語る会」開催の準備を進めたのです。

全空知子どもの作品を語る会の発足

南空知図工、美術サークル委員長本田氏と、同副委員長三浦恭三氏は、南空知の組織づくりも含めて、まず会場を南地区でもということになり、39年秋、第1回「全空知子どもの作品を語る会」が、栗沢小学校を会場に誕生したのです。当時の開催を呼びかけザラ紙の印刷物に次のように語っています。

この大会を「子どもの作品を語る会」とし、従来

の教研などの形式ばった窮屈なものではなく、授業の中で作られた作品を中心にして、参加者が自由に意見を述べあい、感想を語り合い、討論しながら自己の研修を高めるものであり、ひいては、全空知の教師の親交を深めようとするものです。（中略）ここに提示した新しく試みようとする大会は、興味のない形式ばった今までの研究会のあり方を、一変させ、経験の浅深にかかわらず誰れでも自由に参加ができるようにし、自分の好き勝手な意見をだし合い、自己を高めようとする新鮮味のあるものにしようとするものです。……………（後略）〈原文のまま〉

ここに「むすび合い、みがき合っていく空知の美術教師なかま」の原点、語る会の姿が生き生きとうたいあげられているのです。

一粒の種が芽を吹くとき

栗沢で播かれた「語る会」の種は、新鮮な種とともに畑もまたすばらしいものでした。森谷一氏早弓弘行氏を中心に、山下泰宏、東志隆、青山清輝、斉藤富男、徳梅英次郎、富田弥市、一ノ戸信雄等各氏の勢力的な仕事ぶりが、空知の土壌のなかで、「語る会」の種を立派に芽生えさせたのです。「経験の浅い深いにかかわらず、軽い気持で発言でき」「形式ばらずに自由な討論で」「しかも作品を中心にした具体的な」話し合いの研究会。第2回滝川大会は、全国でも例をみない会を見事に成功させたのです。この時の参加者200余名の情熱がその後の「語る会」を大きく育てていくのです。

第2回 空知子どもの作品を語る会

S 40・11・10 滝川第一小学校

大会のめだま

子どもたちのすばらしいエネルギー

私たちのあくことない努力と

それに……………創造のはたらきが加われれば空知の美術教育も、もう一歩前進するだろう。百人の一歩前進、いやみんなの百歩前進をめざして語りあおう。

大会をささえたひとびと

5月のはじめに中空知図工サークルを結成。その委員長森谷一を中心に大会推進委員八名他に各支部サークル委員長が十数回の会合を重ねた。

「なかなか出られなくて弱ったなあ」といいながらも北空知の和田竜郎（退職）が見事なアイデアを提供してくれたし、砂川の山崎肇、芦別の橋本晃美、赤平の道川順也、江部乙の北信昭、奈井江の中里馨などは、役員と同じだけの会合に足を運んだ。こうして、第二回大会は見事に芽生えた。

かたらい

作品は壁面に飾りつけられたものの外、床に用意された机の上に山積みされている。この分量は予め割当てられたものの外、ひとりもくもくと実践された先生幾人かの当日持ちこみで、どんなことでもよいから話してほしい、教えてほしい、という切な願いがかけられたものである。寒さにふるえながらぼつぼつ語り合っている姿



版画コーナー

は、決して他の研究会でみるきどりや、固さがない。もう幾年も以前からの知己同志の話題のようであったし、そうかと思えばまた、きびしく追求しあう場もあって、美術教師ならではの風変わったエネルギーと、やわらかみを兼ねた空気がみえていた。

でも時おり群から離れて一人幾枚かの絵を抱えては空知の大老、徳梅、斉藤等、フリーのガイドに秘やかに助言を求めていたみえうるわしき女性等もあってこの会の麗しさを具現していた。

えとせとら

雪も降ってきた。一千点近い作品を展示し終えたのが夜半過ぎ。さすがのタフガイ連中をして「もう降参デス」と言わせたものであった。当日、200人の参加者で会場は熱気を帯びた。

第3回 空知子どもの作品を語る会

S 4 1 ・ 9 ・ 2 2 深川小学校

大会のめだま

造形 — 絵をかくこと — 創造は子どもたちの最初の自由と独立への歩み出し —

生活を話しかける限りない子どもたちの創造性……そこに直面した私たちには造形教育の……本質の……とむづかしい理論を超越した世界があるのではないだろうか。

手さぐりでスタートした「語る会」北空知としては初めての大会、とにかくかたくなしい研究会にせず、底辺を広く、これから発展していくために「参加者が自由に歩き廻り、自由に発言し、楽しい中に何かをつかんで帰ってもらう。そんな会にしようじゃないか—」

大会をささえたひとびと

北空知には後に「空知美術教育研究会」の創立者の一人山本栄蔵（現夕張遠幌小）現在空美のコンサ役、北空知一円の広大な地域にあって図工美術サークルのまとめ役。若い者を引きつけ育てる北空知の柱のひとつ。もう一つの柱に企画力に優れ、動き出す時にはなくてはならない存在の田村幸夫（現赤平平岸中）があった。又一つ一つの車輪となり軸となって活躍した事務局長の田家靖久（現滝川一小）渡辺貞之（現妹背牛小）川越康男（沼田中）喜多成男（美葉牛中）渡辺信一（現滝川三小）今は他地区で健斗されている渡部 弘氏、後藤哲也氏、大井繁雄氏、愛沢光司氏と数多くの協力が思い出される。又、北空知各市町村の

助成があり初めての取り組みにがっちりスクラムを組んだ。



かたらい

初めての試みで心配したが、仲間が指導作品をそれぞれ持ち寄り、なごやかな中に基本的な語らい。描画コーナーでは絵の見方と感動、色のませ方、筆の使い方、見る人に訴える構図について。立体デザインコーナーでは立体構成と子どもの抵抗、子どもの夢とアイデア、経験させることの大切さなど、又版画コーナーでは、主題について、かんたんな技術指導について、良い作品を見せるについて、用具の正しい使用方法など話題は種々雑多ではあるが互いに話題提供、交流をし合い来年の大会を楽しみにしたのである。

えとせとら

○各実技コーナー、お祭りの出店のごとくにぎやかだったが、自分も手をよごしてほしいね
○別にたいした作品ではないと思うが、よく見ていると味が出てくるねエ……彫塑コーナー眺めていたある男の先生～

第4回 空知子どもの作品を語る会

S 4 2 ・ 1 0 ・ 2 3 北村中央小学校

大会のめだま

造形活動の各分野の中で、最も子どもたちが興味を示す「立体表現」に焦点がしぼられた。そして、ねらいを「材料経験を通して立体表現によって子どもの造形力を鼓舞していこう。」とした。

石膏像、焼物、段ボールや厚紙の「たてもの」石けん彫刻、木彫、粘土、わら、毛糸の「人物や動物」、画用紙や割箸などの面材線材の立体構成、石膏や木のレリーフ、トーテムポール、などなど……会場狭しと集まった。

大会をささえたひとびと

北村が会場であったが、南の各地区関係の諸氏の力がいしづえとなった。石崎孝治、本田哲也（現茶志内小）島垣純男（死亡）佐久間昭夫 倉岡啓吉（南長沼中）堀忠夫 三浦恭三（美唄三井美唄中）中谷有逸（現帯広柏葉）松山茂 南巖衛 金子忠昌（死亡）らであった。

かたらい

○かれらは こわすことを よろこび
かれらは つくることを よろこぶ

われわれは

かれらのそのよろこびの力に

ならなければ……と思う。

われわれの力は かれらよりよわい

そのため、われわれは

かれらの作品を学び

そして、語ろう。

○ 作品が立体の物（作品）だけに かさばったり こわれやすい。輸送に苦勞した。ヒヤヒヤもので運んだ。

仲間が直接持ってくる作品の山山、その作品群を見て、「これは大変な数だぞ、全部並べられるかな……」

会場せましとばかりに作品を並べた。

○ 元気一杯の子どもらの作品。
「珍しいもの、感心するもの 驚くものたくさんある。」
「こんな材料で、こんなものを作れるのか」
「どうやって 作ったのかな」
「おれにも 出来そうぞ」
「こんど、学校で、すぐやろう」

あらかると

○「素材、用具、発達段階、領域、時間、経費 主題は？」とつきることなく語りはつづく…
○子どもの成長を造形の喜びを与え、願う。
○「私は美唄から初めて参加、本当に来て良かった。」と年輩の教師。
○石狩原野のど真ん中 空知唯一の村「北」で 仲間意識がお互いに結びあう。またあおう！

第5回 空知子どもの作品を語る会

S 4 3 ・ 1 0 ・ 1 4 芦別小学校

大会のめだま

「共同制作、その授業のかまえと指導過程」

子どもの作品には、生活の喜びがある

創造した喜びは

価値ある心のゆさぶりとなり、彼ら自身

の成長を促す

子どもが彼自身であるように、又、彼自身に

なるように

彼らの生活の中から

共同化をもとめあう

子どもは彼らの作品、および、他の作品の中

から一つのものを選びだす。

こうして、自分のまわりの作品を尊び真

の価値と美しさを発揮する

それ故に、われわれは

彼らの逞しい力を育てなければならない。

彼らの創造の共同者とならなければならない。

ない。

大会をささえたひとびと

芦別のサークル

を中心に中空知

美術教育研究会

のメンバー34

名が27回にも

およぶ会合を重

ね、緻密にそし

て強力で大会の

推進にあたって



きた。特に、事務局を担当した、故藤原 明氏はもち前のねばり強さと指導力で素晴らしい大会にもりあげた。

かたらい

ベニヤ10枚組の描画やら、ひとりでは動かせそうもない立体作品などエネルギーな子どもたちの作品が体育館いっぱいにおかれると、はいつてすぐは圧倒された感じの先生も多かったようだが、ガイドの先生はさすがにベテラン、研究層をひろめるといふ基底目標をおさえながら素朴なものを大切にする方向で話をすすめてくれる。

「この絵を描す前にどんな話をしたの？」と問う女の先生。「この材料いくらするんだらう」とすぐやる気になる先生。「これが失敗授業の作品なのですかねえ」とさかんにふしぎがる先生。かざりけないことばで本当のことを直接的に語り合える仲間がいる。

えとせとら

大会の2日前から数人が芦小の宿直室にとまりこんで会場設営にあたったが、空が白々となるとあわててフトンに入るまで討論をしたのも語り草。「子どもに与える題材は、自転車とビー玉のどちらが云々……」知らない人がいきなりはいつてきたら、フウテンのネボケ論とも聞こえたらうに。

第6回 空知子どもの作品を語る会

S 4 4 ・ 9 ・ 2 2 深川市立納内小学校

大会のめだま

「元気な作品」

— 思い切った動きのある表現 —

ブランコはゆれ動き

子どもは髪をなびかせて走っている……

いつも気をつけているような動きのない絵を描く子どもの心は

動的でなくいきいきしていない。といえよう

じょうずな絵を描かなくてよい

よろこんで、元気に描く子どもにしたい。

なんでも工夫し、自分でやれる子どもにしたい。

こんなことを理論の上で理解し合うのではなく子どもの作品を手にとって話し合ってみたい

「どんな授業でできた作品なのか。」

「どんな子が作った作品なのか。」

「こんな方向で指導してみようか。」

と具体的に話し合ってみよう。

この研究会は経験の浅い深いかかわらず軽い気持で発言でき形式ばらない自由な討論の研究会として育ってまいりました。むずかしい理くつが話し合いの中心ではなく、作品を中心とした具体的な話し合いの研究会です。子どもの作品を見たり、お互いの意見の中から何かをつかみとお帰りに

くたされば、それでよいのです。

大会をささえたひとびと

研究の田家靖久(滝川第一小)川越康男(沼田中)渡辺信一(現滝川第三小)渡辺貞之

(現妹背牛小)らがおり、庶務の水谷淳(菊水小)事務局の田村幸夫(赤平平岸中)水本凱也(現高校)が骨をおしませつきました。この時の副会長に徳梅英次郎 山本栄蔵が任にあたりました。

かたらい

「元気な作品とは何か。」

「乱暴な作品と間違われぬか。」

「どう指導し、どんな作品をさすのか。」

「第四回は立体、第五回は集団制作、六回目はそれ以外の領域を考えたらどうか。」

「いや別に必要はない。」

「いや第五回の積み重ねが必要だ。」

論議が仲々決めかね、ややお手あげの体で、

「じゃ思いついたらま、ずばり言って見ろ」

益々混乱……

「子どもの絵に人のいないものはない。」

「人物を主とした絵画にしぼってはどうか」

「絵とかデザインなどに拘わらず、子どもの夢を表現させる方がよい。」

「いや美の要素の一つを取り上げて設定する」

「原案通り『元気な作品』でよからう」でケリ

熱弁熱意 沸騰理屈 混乱 論議 発展 構築

第7回 空知子どもの作品を語る会

S 4 5 ・ 9 ・ 3 美唄市民会館

大会のめだま

創造する空知の子ども……

集まって来た人みんなが主役になれる研究会。子どもの作品を、指導した先生を、おかあさんをだいにする会、特定の選ばれたものではなくクラス全員のものがならべられているような会。そこに集った人が自由に作品を見語る会。来年は自分も作品を持ってきて話合ってみようと思えるような会。

絵の病院開設

絵の病気は心の病気でもある、心の開発原因を探る……ベテランの診断

大会をささえたひとひと

事務局長として、アイデアと手腕がさえたバイタリテイ溢れた行動派、和田竜郎が美唄中学校にいた。どんどん広がる大会への夢を着実に現実に照らし推進にあたった空美の大黒柱ともいえる第26回全道大会の立役者、早弓弘行（現岩見沢南小）青山清輝（現岩見沢小）と空美研を育て、企画力抜群、信望厚く、人間的優しさを持つ二人の男がいた。

又当時若手として年に似ずがっちりとした仕事をやる横山 徹（現岩見沢第一小）。今年退職された65才の超ベテラン浅野日出男先生が副大会長として奮闘された。それに宮脇清吉先生はじめ図工美術部員の努力、市教委の強力なバックアップと、非常にゼイタクなスタッフにて運営されたのである。

当日大会を成功させた要因のひとつに特別コーナーの森川昭夫先生（機構工作）塚本貞男先生（陶芸）中谷有逸先生（版画）奈良孝哉先生（ヨーロッパ美術）、荒木アイ先生、本田哲也森谷 一両先生（絵の病院）のベテランの力があつた。

かたらい

- ・ 午前中は幼稚園、描画、版画、彫塑、デザインのコーナー別れ、話しあいを組織するガイドを中心にそれぞれの作品について、指導過程を探り、実践をたしかめ、技術論を含めながら、指導のたしかめ、技術論を含めながら、指導のあるべき方向を話しあつた。
- ・ 午後に特別コーナーをもち込み実技実習となり予想以上に好評で終る時間の目途もつかない程で、楽しくしかも意義のある催しになった。

えとせとら

- ・ 会場にひるがえるデッカイ旗「空美」。そこいらにある立派なものとはちがう、手作りの味がムンムン……いいもんだ。
- ・ 伊藤 勉（茶志内中）作の大凧「空美」が大空にまいあがっていたっけ。
- ・ 「どのコーナーもいきいたいところばかりで、迷ってしまうわ。」とある女の先生。
- ・ 一日生徒の特別コーナー。その真剣な顔つき目つき、普段の授業で子どもたちから感じているだろうか？

第8回 空知子どもの作品を語る会

S 4 6 ・ 9 ・ 1 4 岩見沢市民会館

大会のめだま

「感動を表現する子どもたち」

❖ 方向

- ・ 日常の仕事について気軽に話し合い、指導上の問題を交流し合う。子どもの作品を目で見、手で触れ、たしかめ合う。
- ・ 子どもの感動をどのようにひきだし、どのように造形的に表現させたか。
- ・ 生き生きとした造形活動をさせるため、問題点やなやみを語り合い、すこしでも、糸口がみつけれ、あしたからのかてとなれば…

大会をささえたひとひと

緑中学校が大会事務局となり当番校の緒先生はもちろんのこと事務局長の塚本貞男（現滝川明宛中 研修センター指導員）のめん密な計画の推進、研究の中谷有逸（現帯広柏葉高）広報宮川美樹（岩見沢東光中）会計玉木憲治（岩見沢光陵中）会場は石崎哲男（岩見沢東光）と逸材ぞろいのスタッフである。

紅林弘昭（現空知太小）も展示部長として大会に参画、田中敏男（岩見沢緑中）は絵画の責任を果す。

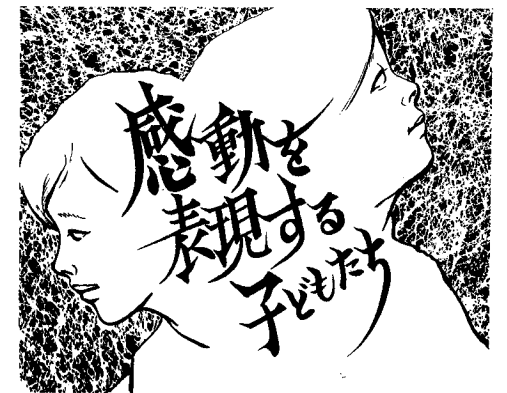
かたらい

おしゃべりタイムコーナー
絵、彫塑 デザイン 工芸 工作の各コーナーに分けて シャベリ合う。そんな場から、研究の性格にふくみをもたせ、実践家の話題提供による質の高いものを期待した。

子どもの作品を見ながら、説明を聞き、問題点を掘り下げ、参加者の悩みや、解決の方向をみつけてだしていった。

10:00から12:00までの2時間の予定で充実した内容のふかまりがあった。

自慢話あり、失敗談あり、どんどんしゃべる。



作品交流タイムコーナー

特に幼稚園コーナーの荒木アイ氏を中心に熱心に話し合い、深めていたことが印象に残る。
作品数が多く 展示はおろか床の上に並べての熱場ぶり。

絵の病院コーナー

- ・ 心 — すなお のびのび 明るく 大胆
 - ・ 絵 — すなお のびのび 明るく 大胆
- たくさんの父母が相談にきていただきました。
- ・ 親 子ども 作品 教師 心 家庭 学校 社会……病巣はいずこにありや

第9回 空知子どもの作品を語る会

S 4 7 ・ 9 ・ 2 0 栗山小学校

大会のめだま

豊かな未来を築く 子どもの創造力を高め、子どもらしく 生き生きとした表現をさせるための指導過程をさぐる。

表現する対象物を多角的、比較的によく見つめ、よく考え人間社会、人間生活の事実や批判をとおして人間性豊かな子どもに既定の概念にとらわれず、想像性豊かな子どもに想像を表現することによって創造力と化し豊かで確かな表現のできる子どもに

理論の上で理解しあうのではなく、子どもの作品を目の前におき、肌でふれあいながら「どんな授業で……」「どんな子どもが……」「どんな方法で指導」「その時の子どもの表情は……」と具体的に話し合ってお互いに理解を深めあう。

大会をささえたひとびと

空知四本柱の一本、現空美研副会長の中里馨（栗山小）なんといっても空知でなくてはならない人材、会長が黒柱と名づけたのも逢えばうなずける。栗山に住んで一年、大会までこぎつけるのに右往左往、げっそりやせるほど苦労しました。何でベテランが……と思われるが、新任地、交流の少ない仲間たちの中で運営するのは大へんなこと。しかし人を引きつけるミリキを持つこの男、会場校の栗山小学校の全職員

の協力、事務局の藤井先生、会計や総括に当たった本間先生、佐藤先生、事業に当たった長谷先生の力添えを得て成功させた。校長会長（奥山四郎校長）の力、栗山町内の美術サークルの熱意も忘れられない。

かたらい

「語る会」として初めての公開授業を試みた。中学校の先生が小学校の児童を、小学校の先生が幼稚園児を指導するのだから心配な面もあったが楽しみもあった。



朝から雨に降られ参加者の数を心配したが、作品を小脇にかかえいつもの仲間が、初めての参加者が、マイクロバスで幼稚園の先生が続々とかけつけいつものにぎやかな「語らい」が始まる。 — 以下略

えとせとら

・実技講座（しき紙、動くしかけ、やきもの木彫、紙彫）は一日生徒となって専門の先生に指導された。子どもの不出来をなげく前に自分の作品を見よ —

・閉会式の足での風せんわり、スカートとした

第10回 空知子どもの作品を語る会

S 4 8 ・ 9 ・ 2 0 滝川市福祉会館

大会のめだま

心をゆさぶり喜びと意欲に満ちたとりくみを求めて — ゆたかな心情にあふれた表現 —

笑顔に満ちた出会いがある

広い空間に子どもたちののちがほとぼしる瞳が輝き、心が躍る

無心の世界がそこにある

— ハッとするような美しさを

からだごと表現する子どもたち

濁りと汚れのなかで、人間が除外された地球に、愛と美をとりもどすのは

こんな子どもたちの創造活動だ

— 子どもたちの可能性を信じよう

豊かな心情を育くもう

すべて私たちのねがいなのだから

大会をささえたひとびと

事務局担当の道川順也（現苦小牧工業高校）は、その独特のあわてない話術でアイデアを次々と出し、関係者をすぐその気にさせていった。総務田家靖久（滝川第一小）研究山本美次（現豊沼中）川村恒夫（江部乙中）、広報堀越 勝（現滝川第三小）、事業照井栄一（現羽幌高校）らのスタッフに滝川市内のサークル員が一丸となって大会運営に当たった。雨谷慶司（滝川第三小）、水上勇寿（現峰延小）、手島とも子（滝川第一小）、森川岩夫（現花月小）、遠藤 均（滝川第一小）、阿部正己（江陵中）など、第10回大会をひとつの節になる大会にしようと

意気に燃えていた。

かたらい

作品と写真の比較研究 — 現場の写真と実際に写生させた作品を見比べながら、指導のねらいや構図の具体的なとらえさせかた。何を選択し、何を省略し、どう画面に組み立てるか。色彩はどのようにして取り扱い、現実とはどう異なるか等 — 玉木憲治（岩見沢光陵中）の実践から……。題材「近くの風景」指導のねらい ふだん、ごく見なれた風景の中からも美を発見できる眼を養う。表現するための心がまえや技法（手だて）などにふれ、今後の表現活動の方向をさぐらせる。……

現地の写真がパネルに大きく引き伸ばされて作品と並んで展示されている。どこから、どのように描かせたのか、だれにも良くわかった話し合いであった。

パネル・デスクッション — 子どもの発想を豊かにするということはどういうことなのか。「意欲」をもたせること、それには、子どもたちに「自信」をもたせることだ。「これから創造するものは、とても楽しいもの。ゆかいなもの。カッコイイものであると思わせる」「世界にひとつの作品だ」「前よりもいいネ」など、導入や机間巡視で指導者の個性的な肉づけが、子どもたちの感性をゆさぶる。

えとせとら

大会終了後の懇親会は、わや／大会役員が、頭からビールの洗礼をうけ、あわだらけ。

第11回 空知子どもの作品を語る会

S 4 9 ・ 9 ・ 2 5 会場 雨竜中学校

大会のめだま

描写指導「学年段階に即応した表現活動を求めて」

何をかかせるか(主題)

どう かかせるか(指導内容)

あつまろう。そしてかたろう。

きやすく、いつものことばで

いま、あなたの目のまえにいる こどもたちに、なにを—どうやって—かかせるのか。

大会をささえたひとびと

北空知としては3回目、他地区にない北空知全域にまたがる学芸連美術部の仲間たち、一同に集合するもたいへん、会場まで約4時間もかかる幌加内から大会役員の紅一点、長谷川まゆみ女史ごくろうさんの一言につきる。そうそうたるメンバー揃いの中でその中心をなす田村幸夫(現赤平平岸中)はじめ前2回の経験者がぞろり、研究部の川越康男(沼田中)齊藤恵(入志別小)広報については道新の記者もまっ青になったユニーク男渡辺貞之(妹背牛小)じゅっくり型のベテラン水谷淳、会場校で人一倍苦労した佐藤正幸(雨竜中)その取りまきがちりささえてくれた。

大橋弘道(多度志小)折笠博三(一己中)氏家功(一己小)千葉真嗣(深川中)川合敏夫(向陽小)富樫諭(秩父別中)岡田政晴(妹背牛小)喜多成男(美葉牛中)いずれ劣らぬ実力者、雨竜町、小中学校の協力が非常にたすかった。

かたらい

作品は日頃授業でやったもの、という考えをかなりアピールしたつもりだったが、まだ「うますぎる」作品が多かった。いつになく話し合いがはじまると立って歩く人もなく各コーナーで熱心に討議がなされた、例年になくたくさんの方の発言が多かったことがよかった。

描画だけにしぼっての話し合いがより日常的にさせた。用具の使い方について、混色の指導について、評価については観点をしぼって、など。又何をかかせるか、主題のほりおこし条件のあたえ方、観察のさせ方、など熱の入った話し合いだった。

参加者のインタビューから

「図工ってむずかしいですか?」

- 別にむずかしくないよ
- むずかしいのかやさしいのかわからん
- めんどろな科目だよな、全く。
- 図工をいっしょうけんめいやる人は学級経営のじょうずな人だって

「今日の大会で収かくは?」

- 自信がついた、自分の実践が正しかった
- なんだか深く考えすぎてわからなくなった
- 何かが見えてきた

.....といろいろ。



えとせとら
 若い娘がどっさりの幼稚園コーナー 中年の男どもがもっともらしい顔してまわりにびったり。

第12回 空知子どもの作品を語る会

S 5 0 ・ 9 ・ 3 0 会場 由仁小学校

大会のめだま

生き生きとした表現をもとめて

— 感動の開発と構想力を高める

指導のころみ —

ひとりふたり さんになより

みんなで語り合おう 同じ悩みを.....

目のまえの子どもたちから

何をひきだし どう育てるかを.....

初心にかえって ふだんのことばで

年に一度のこの集いで

気楽に語り合おう 由仁会場で

大会をささえたひとびと

南空知として三回目、南端の由仁町の仲間の熱意で12回大会を開催。決して多くは語らないが着実な仕事をする三本柱がその大役を果たした。由仁中の寺谷安雄(現妹背牛中)由仁小のベテラン楠野 満、三川中の衣川忠雄がそれである。又転勤まもない川邑 滋(由仁中)の力も大きい。

由仁小学校の会場校長鈴木健治先生はじめ先生全職員が汗を流してくれたし、振興会の佐々木 明校長、町教育委員会の後援と町ぐるみのあたゝかい協力がとってうれしかった。



かたらい

◦ 造形的なものを見、発想に基づいて表現に至るまでの間に構想の段階がある 表現に先だって素材を決定し、技法を考えて完成を予想する 全体的な構想力は、表現活動においても極めて重要なものであり、構想に基づいてそれを構成していく力も大切である。

◦ “子どもたちが積極的に自己を表現するための追求をし、常にくふうし、新しいものをつくりだしていく意欲をもち、感じたことを直ちに情緒的に表現するのではなく「何を」「どのように」「どんな順序」で表現すればよいかを構想し、自分の考えで自分のものを表現する”ための指導のころみについて構想作品をとおしてのかたらい。

◦ 指導の過程については作品や紙上発表のほか VTR、スライド、OHPなどの活用をはかり指導場面再現の具体化をはかる。

えとせとら

◦ 空知の南端なのによくこんなに集まったものだ.....みんな、こんなに関心があるんだなアそれとも — いき抜きかな.....

構想画.....むつかしいもんだ、夢中ではりつけたらさかさまなのが何点かあったっけ — でもそれをじーっと眺め首をひねっている先生も数名いたんだよ。

本田哲也氏、ウエートの美術をスライドにて紹介。

空知美術教育研究会規約

1. この会は空知美術教育研究会といい、空知管内各地区が相たずさえて空知美術教育の振興をはかる。各地区は北空知、中空知、南空知、空知中央とする。

2. この会は前記の目的を達成するために次の活動を行う。

①この会の活動を活発にするための連絡および協力

②「空知子どもの作品を語る会」の開催

③美術教育実践討議会の開催

④研究会、講演会の開催および講師のあっせん

⑤志を同じくする研究団体、文化団体との連絡提携 協力（地区美術団体など）

3. この会の会員と役員を次のようにする

①会員 空知管内における幼小中高その他これに準ずる学校の教職員

②地区教科部会 会員は原則としてこれに所属する

③本部 事務局長の勤務する学校に置く

④役員 会長 1名 本会を代表する

副会長 2名 会長を補佐する

事務局長 1名 本会の本部を置き運営全般を司る

総務部長 1名 会計収支 組織強化（兼次長）

研究部長 1名 語る会、セミナー、講演・講習会 教職員美術展

広報部長 1名 機関紙「空美」発行、会員消息、実践交流、資料提供

監査 2名 会計の監査をする

理事、顧問数名 本会の発展に努力された者をあて、本会の重要な問題について意見を述べる。

⑤地区委員 各地区毎に若干名の地区委員を選出し本会の運営に当る。

⑥選出 役員は会員総会で選出する地区委員は地区教科部会の意向もかんがみて役員会で決定する

⑦任期 役員および委員の任期は一ケ年とする。

⑧運営資金 会費（年500円）事業収入、寄付金による。

4. この会の会議を次のように開く

①役員会 会長、副会長、事務局長、各部長、理事、監査必要に応じて顧問をもって構成し随時開催する

②運営委員会 役員及び地区委員をもって構成し会の事業を執行する

③事務局会議 事務局所属の各部をもって構成し計画立案に当り、時には役員会にかけ原案作成を行う。

④会員総会 毎年5月に全会員で行う。役員

の選出、予算、決算および年度計画等について審議する。また

必要に応じて臨時総会を行う。

5. この会の年度及び規約の改廃を次のようにする。

①年度 本会の事業ならびに会計年度は5月に始まり翌年4月に終る。

②規約の改廃 本規約の改廃は会員総会の議決による。

（昭和50年5月10日改定）

